

美作畧史

矢吹正則著

三十四

2
211

美作畧史卷之三

津山

矢吹正則

著

男金一郎

校

明治

41 6 12

内交

慶長八年癸酉六月

六日。森忠政封于本州。

森系圖。森日記。增補家忠日記。

林朝武

忠政

右近少輔。林直重ノ女。

ハ可成ノ季子ナリ、元

龜元年、美濃金山ニ生ル、幼ニシテ原田直政ニ養ハ

ル、後又長兄長可ノ養フ所ト為ル、天正十二年、長可

長久手ノ役ニ戰死ス、豊臣秀吉、忠政ニ命ジテ遺封

ノ内金山六萬石ヲ襲カシム、後徳川氏ニ仕ス、慶長

四年二月、信濃川中島十三萬七千石ヲ領ス、六年五

月、美濃一萬石ヲ加フ、至是、本州十八萬六千五百石ニ封セラレ、

森氏ハ、源義家ヨリ出ヅ、其第六子義隆、相摸森品

ニ住シ、因テ氏トス、子頼隆信濃ニ徙リ、岩槻氏ト

稱ス、二子頼胤頼定相繼ギ、頼定森氏ニ復ス、其十

一世ノ孫可行、織田氏ニ仕フ、二子ヲ生ム、可成惣與

後三左衛門、可政惣與對馬守、後可成六子ヲ生ム、可則惣與

長可武勝藏後長定丸長隆丸長氏丸忠政、忠政豐臣

氏ニ仕、羽柴豐臣氏ヲ冒ス、豐臣氏亡テ後、又森

氏ニ復ス、

三月二十六日、忠政就封。森系圖。森記録。森家全盛記。

先是、忠政其臣名護屋九右衛門初山伴伊兵衛、伴久

六、河村庄助ヲ美作ニ遣ハシ、風土ヲ觀察セシム、九

右衛門等、倉敷村英田郡ニ至リ、各郡ノ資望アル者ニ

人ヲ會シ、風土民情ヲ諮詢シテ之ヲ報ス、忠政乃テ

川中嶋ヲ發シ、丹波路ヲ過ギ、是月二十一日、一ニ五

八月ニ作ル、吉野郡下庄村ニ入ル、平尾九郎兵衛是

皆非ナリ、州府院注西郡ニ達ス、美作勇士傳ニ曰ク、森

蜂起シ、播境土居ニ要撃セントス、忠政因テ道ヲ丹

波ニ取ルト、是レ謬妄採ルニ足ラズ、名護屋等ノ一

是歲、忠政、老臣井戸宇右衛門作陽誌。森家全盛記。

忠政、居城ヲ院莊構城址ニ築ントシ、井戸宇右衛門

山北村八幡小田中村白神上之町大隅八出村天神
ノ四社寺領ヲ願ツ者津山妙願寺本源寺宗永寺
槃寺田邑村千年寺一宮村本光寺真加部村興隆寺
大井和村西山寺高田村化生寺神目村豊樂寺河内
村瑞景寺田邊村萬福寺院庄村清眼寺神琳寺本覺
廣米ヲ給スル者津山宮川新宮愛染寺本琳寺本覺
寺○溪花院宗堅寺大雄寺石松院小原村玉傳寺等十
城ニ當テ南新坐ニ移シ寺領百石ヲ給ス僧日營不
受不施宗ナルヲ以テ固ク辭シテ受ケズ後士第ヲ
新坐ニ造ルニ及テ又
之ヲ西寺町ニ移ス
定収税法森記

是日忠政自ラ三條ノ法ヲ書シ之ヲ封内ニ頒ツ曰
ク斛ハ丸判ヲ用ヒ曰ク俵ハ重苞トシ曰ク口米ハ
一石ニ二升トス且郡吏私非アレハ貞ニ之ヲ上告
スベシト

十六日造營德守神社森記錄德守社

是年忠政故アリ院莊ヲ棄テ津山津山初メ鶴山
同訓ナルヲ以ニ城カントス德守ハ其地ノ舊社夕
テ津山ニ改ムルヲ以テ先ヅ社殿ヲ造營シ邑ノ總鎮守ト為シ社
領七十石ヲ寄附ス今ノ社即チ是ナリ寛永十二年
長繼又十石ヲ増附ス

是歲丈量田圃檢地帳森記

忠政大倉如真牧家信藤左衛門俱等ヲ率テ封内ヲ
巡視ス而ノ其臣大洞十太兵衛板津勝五郎岸九兵
衛藤田六兵衛水野喜兵衛等ニ命ジテ田圃ヲ點檢
丈量セシメ高五萬六千石ヲ得タリ

十二年丁未九月。洪水。成覺寺縁記。

十三年戊申十月十四日。各務四郎兵衛與小澤彦八。闘于

石山。作陽誌。森家全盛記。

築城ニ當リ、石ヲ大谷金屋ニ村並久米ニ取ル、老臣

各務四郎兵衛勝祿山城ヲ守護ス郡小澤彦八祿六千石

之ヲ監シ、半日ヲ以テ交代ス、二人素ト隙アリ、是日、

四郎兵衛、細野左兵衛祿七ト共ニ石山村、大谷ニ抵ル

彦八巖角ニ踞シ、戯ニ砂礫ヲ彈ク、而テ偶マ四郎兵

衛ニ觸ル、四郎兵衛佛然其非禮ヲ誚ム、彦八屈セズ、

反テ之ヲ罵ル、左兵衛救解ス、二人聽カズ、四郎兵衛

挺ヲ把テ彦八ヲ歐ツ、左兵衛四郎兵衛ヲ擁止ス、彦

八乃チ刀ヲ抜キ、四郎兵衛ヲ斬テ左手ヲ墮ス、左兵

衛狼狽シ、四郎兵衛ヲ齧ニ擠ス、彦八齧ニ下リ當ニ

之ヲ刺ントス、四郎兵衛崛起シ、彦八ヲ斬リ之ヲ殺

ス、四郎兵衛ノ家臣佐藤作太夫、左兵衛ノ主人ヲ擠

スヲ怒リ、槍ヲ執テ之ヲ串ク、其夜、四郎兵衛家ニ歸

テ自殺ス、忠政江戸ニ在リ、報ヲ得テ三氏ノ祿ヲ没

ス、四郎兵衛ハ、兵庫元正ノ子ナリ、忠政元正ノ舊熟

祿若干ヲ給シ、共ニ老臣ニ列ス、

是歳、忠政遷鶴山八幡社于山北村。作陽誌。森家全盛記。

社初メ鶴山ニ在リ、山名忠政判官在城ノ日、崇敬スル

所ナリ、森忠政城ヲ其墟ニ築クニ及テ、社ヲ城南覗

山久米南條郡八出村、遷ス、是年八月十四日、忠政夢ム神告テ曰ク、祠ヲ他郡ニ徙ス勿レ、當ニ舊郡西北ノ地ニ祀ルベシト、是ノ如キ者累夕、忠政心之ヲ異ミ、近臣伴唯利藤右衛門、祠官富岡政義新左衛門ヲシテ地ヲトセシム、二人對ルニ城ノ乾位不知夜山西北條郡ヲ以テス、忠政其夢ト相符スルヲ以テ、倍之ヲ奇トス、乃チ其臣河井又右衛門ニ命ジテ祠堂ヲ造營シ、社領五十石ヲ寄附ス、舊ニ依テ鶴山八幡宮ト稱ス、十四年巳酉、割英多郡大河内村為十村。江見家記。大河内村、土地廣漠ナルヲ以テ、割テ岩邊、大内谷、豐野、松脇、鯨瀬、蘆河内、吉田、藤生、川崎十村ト為シ、大

河内村ノ名ヲ廢ス、

老臣大塚丹後守勝山城。作陽誌。大塚家譜。

忠政丹後祿七命シ、各務吉保吉左衛門ニ代テ之ヲ守

ラシム、丹後初メ治右衛門ト稱ス、森可成、長可、忠政

死ス、子主膳、孫丹後、曾孫内膳、相繼ク、而ノ内膳、大ス、

森氏乃チ其弟監物ニ四千石、左門ニ千石ヲ給シ、仍

小城ヲ守ラシム、延寶中、左門仕ヲ致シテ後、監物モ亦病ヲ以テ辭シ去ル、

後水尾天皇慶長十七年壬子、森可政徙于津山。森系圖。森記録。

可政ハ忠政ノ叔父ナリ、織田豐臣二氏ヲ歴テ、徳川氏ニ仕フ、関ヶ原ノ役、軍功アリ、從五位下ニ叙シ、對

馬守ニ任ズ、忠政幕命ヲ奉シ、駿府、篠山、名古屋諸城ノ修築ヲ掌ルヲ以テ、幕府ニ請ヒ可政ヲシテ國ニ

就キ事ヲ攝セシメ、祿七千石ヲ分テ之ニ給ス、可政
 伊豆守重信ヲ江戸ニ留メ、五子采女可春、六子左近
 正信ヲ掣、津山ニ至ル、元和九年五月卒ス、年六十
 四、西寺町桂德寺ニ葬ル、可春始テ臣下ニ列ス、其子
 宗兵衛三信ヲ歴元、采女三隆ニ至リ、森氏國除ス、○
 桂德寺、淡壽
 光寺ト稱ス

十九年甲寅冬、大坂之役、忠政從之。森記錄冬陣備立。

忠政江戸ニ在リ、事起ルニ及テ、直ニ大坂ニ赴キ、天

満口ヲ攻ム、十二月十九日、兵解テ歸ル、

元和元年乙卯夏、大坂之役、忠政又從之。森記錄大坂陣首帳。

忠政船場口ヲ攻メ、首級二百六ヲ獲タリ、五月七日、

城陷リ國ニ歸ル、此役、森可春、井上弥次兵衛、吉田九

市郎、飯尾嶋之丞、津田勘兵衛、森田弥右衛門、木村傳

三郎等最モ功アリ、冬夏ノ兩役、忠政封内ニ令シテ
早川氏等、遺臣民間ニ在ル者、自ラ請

二年丙辰津山城成。森記

先是、忠政城ヲ築ク、豊前小倉城ニ模倣セント欲シ、
 人ヲ遣シ之ヲ圖セシム、至是、其城主細川忠興鐘ヲ

贈テ成ヲ賀ス、忠政之ヲ天主閣ニ安ク、狀牽牛花ニ

似ルヲ以テ、俗ニ朝顔ノ半鐘ト稱ス、天主閣五層高

西十間、南北十一間、樓櫓七十七、門數四十一、○忠政

五層ノ天主閣ヲ造リ、幕府ノ猜嫌スル所ト為ル、幕

吏之ヲ詰ル、忠政答ルニ、四層ヲ以テス、吏信セバ、將

ニ在リ、忠政密旨ヲ奉シ、其夜、津山ニ歸リ、一層ノ

去ル、一説ニ云ク、忠政譴責ヲ幕府ニ獲ル、其臣櫻井
 某、築城ヲ掌ルヲ以テ、妨ラ之ニ當リ、隱岐ニ配セラ

ル、今隱岐美作屋ヲ稱スル者アリ、此レ其裔ナリト、按ニ天主閣四庇ニシテ五階ヲ存セリ、蓋シ上説ニ似ルベキニ似タリ、

三年。丁。南新坐士第。及林田町成。森家侍屋敷割帳。東作詩。

英多川大水。青野村明細帳。石川家記。

先是、勝南郡王子高下、飯岡三村ハ、英多川ノ北岸ニ

在リ、是時、水道變易シ、三村ノ間ヲ環流シ、高下村獨

リ川南ト為リ、英多郡ニ接ス、

五年。巳。六月。忠政收廣嶋城。森記録。戶川家記。

幕府福嶋正則ノ所領安藝備後ヲ没ス、於是、忠政松

平忠雄備前國主、加藤嘉明陸奥會津藩主、戶川達安備中庭瀬藩主等ト

幕命ヲ奉シテ廣嶋城ヲ收ム、

六年。庚申。三月二十三日。祀大隅神社于上之町。東作詩。美作稱。作天和三年誤。

橋本町、林田町、勝間田町、中之町ノ居民、大隅神社南

條郡林ヲ上之町ニ分祀シ、以テ産神ト為スヲ請フ、

森氏之ヲ許シ、社領二十石ヲ寄附ス、

九月十日。坪和郷人竹内久勝死。作陽詩。竹内家記。

久勝ハ久盛中務ノ第二子、初メ藤一郎ト稱ス、父ノ

業ヲ継ギ、劍法及ビ柔術ヲ善クシ、其奥ヲ極ム、嘗テ

京師ニ游ブ、豊臣秀次之ヲ寵賞シ、常陸介ニ任ズ、蒲

生氏卿亦之ヲ優遇ス、久勝名世ノ力士宇喜多詮家、

左京亮、備前富山城、戸田五郎兵衛尾張人、ト技ヲ較シ、主、祿二萬四千石餘、

皆弟子ト為ル、其他縉紳名家ノ、贊ヲ執リ門ニ入ル者甚ダ衆シ、近衛閑白、召テ日下開山ノ號ヲ賜フ、後角石谷村久米北ニ歸リ、病テ死ス、久勝ノ子、藤一郎ヲ承ケ、世ニ名アリ、弟子一千餘人、亦京師ニ游ブ、鷹司閑白、其技ヲ喜ミシ加賀介ヲ授ク、是歳、忠政修大坂城。森記、平尾家記、杉山又六筆記。

忠政幕命ヲ奉ジ、國民數千ヲ募リ、大坂城ノ石垣ヲ修築ス、寛永元年及ビ五年、又之ヲ修ス、

七年、辛酉。津山川大水。森記、陽誌。

先是、津山川ハ二宮村西條郡、ヨリ東流シ、小田中村、數ノ鼻、西北ニ至ル、於是、水道南ニ變ジ、龜ヶ淵埋ル、

九年、癸亥。割勝北郡、梶並西谷村、置馬桑村。東作誌、郷村帳。

元和中、重臣渡邊越中、棄祿去。森記

越中、小田原大坂ノ兩役ニ從ヒ、功アリ、重臣ニ列ス、

忠政江戸ニ詣ル、途大水ニ會ヒ、越中ニ命ジテ之ヲ

測ラシム、越中輒チ從者ト流ヲ亂シ、前岸ニ達シ、颺

言シテ曰ク、戰ニ臨ミテ流ヲ亂リ、敵ヲ鑿スルハ、固

ヨリ吾輩ノ任ナリ、夫ノ水ノ深淺ヲ測ルガ若キハ、

則チ卒隸ノ事ナラズヤト、遂ニ去ル、越中曾テ津山

庫ト碁ヲ圍ム、條々又ハ、傍ニ在リ、越中ヲ助ク、兵庫

大ニ怒リ、又ハノ拳ス、又ハ曰ク、巡拳ナリト、直ニ越

中ヲ拳ス、越中亦兵庫ヲ拳シテ止ム、時ノ人共推智ヲ稱ス、

寛永二年、乙丑。吹屋町成。森記 森氏鑄工ヲ瓜生原村勝南ヨリ、津山ニ從シ業ヲ開

カシム、其地ヲ名ケテ吹屋町ト曰フ、

三年。丙寅。八月十九日。忠政入朝。森記錄。將軍上洛記。

是日、忠政將軍秀忠ニ從ヒ入朝ス、左近衛中將兼美

作守ニ任ズ、世子忠廣從四位下ニ叙シ、侍從、右近大

夫ニ任ズ、忠廣ハ忠政ノ第三子ナリ、慶長九年、院庄

開、忠政近衛少將ニ任ズト為ス、誤ナリ、

是歲、林田新町成。美作記。東作詩。

元和中、中之町既ニ成ル、爾來人民又輻湊シ、家屋櫛

比ス、是ニ於テ、佐佐木太郎兵衛、請テ市街ト為シ、新

町ト名ヅク、

明正天皇。寬永八年。辛未。勝北郡真加部村大火。東作詩。

十一年。戊申。七月七日。忠政卒。森系圖。森記錄。作陽誌。

將軍家光上京ス、忠政乃チ津山ヲ發シテ京師ニ入

リ、妙顯寺ニ館ス、居ル七日、病ニ罹テ卒ス、享年六十

五、法謚本源、紫野大德寺ニ葬ル、忠政卒スルノ夜、西

ルガ如シ、而ノ土石依然タリ、不日計至ル、延寶二年

二月二十八日、亦震動ス、往ノ如シ、近里其凶兆ヲ

怖ル、此日、森忠繼果テ卒ス、

八月二日。長繼嗣。森系圖。森記錄。関家記。

長繼ハ関成次九郎次郎、後民部、ノ長子ナリ、慶長十五年、津

山ニ生ル、兵助ト稱ス、忠政其外孫タルヲ以テ之ヲ愛シ、祿若干ヲ給ス、嗣子忠廣夫スルニ及デ、之ヲ立

テ之ニ讓ルヲ請フ、長繼江戸ニ在リ、計ヲ聞キ西上

ス、是日ニ係ル、四日將軍家光ニ二條城ニ謁シ、忠政ノ

遺封ヲ襲ク、重臣関成次、森可春、大塚主膳三俊、各

十二月、檢人員、森記録、美作稱。

士卒陪隸一萬四千二十人、神官僧侶五百六十二人、

修驗一百二十七人、農十六萬七千三百二人、高一萬

四千三百四十九人、計十九萬六千三百六十八人、

十二年、乙亥、長繼東觀、森記録、國朝舊章録、

先是、寬永六年、幕府諸候ニ令シテ妻子ヲ江戸ニ移サシ

ム、是年六月二十一日、諸候會同、期ヲ定ム、後恒ニ

隔年四月ヲ以テ東上ス、初ノ幕府諸候ノ重臣一人

寛文五年七月ニ至テ之ヲ廢ス、文
久二年、又妻子ヲシテ國ニ就シム、
十三年、丙子、夏旱、祈雨于龍王祠、作賜誌。

祠ハ佛教寺、久米南條郡ノ山中ニ在リ、長繼郡吏ヲ
シテ雨ヲ祈ラシム、乃チ雨フル、

十四年、丁丑、冬、西新座、椿高下士第成、森家侍屋敷割帳、

十五年、戊寅、長繼奉幕命、拘松倉勝家、森記録、慶弘紀聞、

肥後天草ノ亂、勝家、長門守、肥前慶置ヲ失セリ、幕府

乃チ其邑ヲ收メ、勝家及ビ其臣二人ヲ拘シテ森氏

ニ屬ス、四月十四日、勝家津山ニ至ル、長繼之ヲ城中

ニ幽ス、幾ク無シテ、幕府復之ヲ江戸ニ召シ死ヲ賜

フ、七月十九日、森氏ノ芝郎ニ自殺ス、

寛永中。藩士吉田作右衛門。殺僕市助。作陽誌。森家全盛記。

作右衛門人ト為リ強勇角觝ヲ好ミ、毎ニ友人ヲ會

シテ其技ニ誇レリ、一日、其僕市助ニ官村人、傍ニ在リ、

作右衛門曰ク、吾汝ガ腕力ヲ試ント、市助固辞ス、聽

カズ、遂ニ相撲ツ、市助性率直ニシテ膂力アリ、輒チ

作右衛門ヲ投ズ、一坐手ヲ拍テ激賞ス、作右衛門慙

念シ、其夜、父長左衛門ト謀リ、市助ヲ殺ス、市助ノ父

與兵衛、其宛死ヲ怨ミ、尸ヲ負テ御先神祠高野神社ノ境内ニ

在ニ詣リ、仇ヲ復スルヲ祈リ、俄ニ顛狂シテ死ス、是

ヨリ後、吉田氏妖怪アリ、厭祓效ナク、年ヲ超テ家人

皆死ス、初メ孤來テ幽冥ノ事ヲ語ル、唯聲アリテ状

ヲ見ズ、一日言フ吾書ヲ能スレト、人覽ルヲ欲ヒク

ト、家人怪テ筆硯ヲ與フ、墨條ヲ自磨シ、紙筆飄揚シ、

地ヲ距ル丈餘ニシテ文字ヲ現出ス、乃チ紀貫之ノ

詠歌忍ブレド、戀シキキハ、足曳ハ、ニシテ筆態頗ル

風致アリ、之ヲ高野神社ニ藏ム、

後光明天皇。正保二年。西。製國圖。森記。

森氏幕命ニ從ヒ、封内ヲ測量シ、地圖ニ葉ヲ製ス、

改久米北條郡大井北方村、為中北村。作陽誌。

三年。丙戌。五月二十八日、下禁令九條。小原家記。

九條中、津山川西々條郡久田村ヨリ、勝加茂川東北

水源ヨリ、津南郡木知ヶ原村ニ至ル、宮川西北條郡西一宮村ニ至ル、津山川二至ル、二換スルヲ禁

後長成之ヲ改メテ津山川ハ西條郡山城村ヨ
ズリ西北條郡小田中村ニ至リ加茂川ハ東北條郡
綾部村ニ至リ津山川ニ至ルノ間ト為ス而ノ高田川
真島郡見尾村ヨリ横部村ニ至ルノ間ヲ禁ゼリ
慶安元年戊寅菅繩手官道成御村治 華繪園

先是官道ハ津山ヨリ藪ノ鼻ヲ經テ二宮村ニ出ツ

元和中津山川南ニ變シテヨリ小徑ヲ其磧間ニ開

キ筋違道ト稱ス至是其往復ニ便ナルヲ以テ始テ

官道ト為シ茶肆四戸ヲ置キ皆其地租ヲ免ス初ノ

國主堀尾松平氏等江戸ニ詣ル毎ニ又米北條郡宮

尾村ヨリ錦織佐良種大戸ノ諸村ヲ經テ備前三石

津山ヲ過ギテ播磨ニ出ヅ

開墾西々條郡布原御村沿草繪 作陽誌

布原古川ハ曠野ナリ長繼命シテ之ヲ開墾シ杳杳

美川ノ水ヲ漑ガシム

三年癸卯割テ米南條郡東山村為四村作陽

東山村ハ稻岡莊ニ在リ割テ新莊山城金堀羽出木

ノ四村ト為シ東山村ノ名ヲ廢ス

兼應元年壬辰十二月関長政列諸候森記録関家

長繼長政ニ一萬八千七百石ヲ分テ幕府ニ讓テ諸

候ニ列セシム於是長政細野友祐市郎右衛門祿十

給フ所大橋重次忠兵衛祿ヲ以テ家老ト為ス長政

ハ城内松ノ段ノ下ニ在リ

関氏ハ藤原秀卿ヨリ出ヅ其裔関長重尾張一宮

ニ住シ織田氏ニ仕フ子成共美濃瀧野城ヲ守リ

森可成ノ女ヲ娶ル、長久手ノ役、森長可ト共ニ戰

死ス、二孤成次、竹若、森氏ニ依リ、津山ニ從ヒ移ル、

成次、後忠政ノ女ヲ娶リ、四男一女ヲ生ム、長子長

繼、森氏ヲ續ク、次子長政、但馬守、後家ヲ承ク、次長

明、勘解衆之市、俱ニ森氏ニ祿仕ス、女ハ森正方左所

衛門、森氏ニ配ス、竹若、忠政ノ母、妙向禪尼ノ遺命

和三年、忠政、妙願寺ノ津山ニ創建シ、了向ヲ以テ開祖トス

是歲、令農民居田間者、徙山麓森記録、鄉村沿革繪圖

農民田圃ノ間ニ家居スル者多シ、長繼、其良地ヲ填

塞スルヲ憂ヒ、命ジテ山麓ニ徙リ居ラシム、是年、久米南條

郡暮田、古城、北三村ノ居民ヲ徙ス、明年、同郡一方村、居民ヲ四川、南ニ徙ス、明曆二年、西々條郡吉原、新森

原ニ村ノ居民ヲ徙ス、寛文四年、勝南郡川邊村ノ居民ヲ徙ス、民ヲ徙ス、貞享二年、東南條郡川崎村ノ居民ヲ徙ス、

二年、癸巳、修營梶並ハ幡宮、東作社、勝北郡梶並、中谷村、ハ梶並莊十村ノ産神ナリ、是年、長繼資

若干ヲ捐テ、之ヲ助ケ修ス、

三年、甲午、七月十九日、洪水、森記録

後西天皇、明曆元年、乙未三月、宮脇町成、森家侍屋敷割帳、小原家記

築城以來、庶民輻湊シ、東ハ新町ヨリ、西ハ安岡町マ

テ、肆店鱗次ス、陸續来リ居ル者猶多シ、於是、藩臣南

條次郎右衛門、吉原吉左衛門ノ第ヲ收テ、市廛ニ属

ス、其地、德守神社ニ接スルヲ以テ、宮脇町ト名ツク

ト云フ、後又徳守神社ノ境地ヲ割キテ、市街ニ属ス、
街ニ属スルヲ請ヒ、止マズ、森氏乃チ其不敬ヲ責メ、
之ヲ死ニ處シ、而シテ兩町ヲ市街ニ属シ、地租ヲ免ス、
今其年月詳ナラズト雖モ、寛文七年以前ノ事タル
ル明ナリ、嘉永中、安岡町ノ人、祠ヲ建テ之ヲ祀ル、
十月十三日、改定市制森記。

市制十七條、第一、忿争鬪毆ハ、舊法ニ仍テ理非ヲ問
ハズ、共ニ死ニ處ス、荷擔スル者ハ罪ヲ同フス、第二、
子弟ノ鬪争ハ、父兄之ヲ制止スベシ、教唆スル者ハ
曲事ニ處ス、第三、吏長ノ僉議ニ從ハズ、私意ヲ張ル
者ハ、曲事ニ處ス、若シ吏長非アレハ、獄ヲ解テ罪ヲ
科ス、第四、買懸リ若クハ負債シ、死ハル者ニシテ嗣
子ナキハ、口入人ニ徵スベシ、若シ證跡ナケレバ然

ラズ、第五、父母及ビ胥吏ノ教令ニ違犯スル者ハ、暫
ク獄舎ニ拘置ス、尚性行ヲ更メザレハ之ヲ追テ、若
シ父母ニ遺恨ヲ挾ム者ハ死ニ處ス、第六、親子ノ口
論ハ、親戚或ハ吏長之ヲ調和スベシ、若シ服從セズ
シテ詞訟セバ、詮議ノ上父母ノ意ニ任セ、其子ハ獄
舎ニ拘置シ、或ハ他方ニ追放ス、第七、兄弟ノ詞訟ハ
質對セシメ、曲者ニ罪ヲ科ス、第八、夫婦離婚シテ、敷
銀衣具等返サシル者ハ、曲事ニ處ス、第九、傭人家長
ト對決ヲ乞フテ、傭人若シ非アレバ、獄舎ニ拘置シ、
別ニ其罪ヲ科ス、第十、家跡ヲ次子ニ譲ラントスル
ヲ以テ、嫡子出訴スルモ、其父在世中疎意ノ證アレ

バ其意ニ任ズ、若シ繼母ノ意ニ出テ、嫡子奉養ノ欽
ルコト無レバ、嫡子ノ進退トス、第十一、父母ノ肯セ
ザル女ヲ娶ラントスル者ハ、狼藉ニ坐ス、第十二、寡
婦、亡夫ノ親族ニ其人ナクシテ、他人ノ子ヲ養ント
欲セバ、親族及ビ組合人之ヲ周旋スベシ、第十三、寡
婦財産ヲ恣ニシ、或ハ奸通シテ忤ザル者ハ、之ヲ去
リ、親族協議シテ當器ノ人ヲ撰ミ、其家ヲ齊ヘシム
ベシ、第十四、本夫姦通ノ證ヲ以テ訟レバ、姦夫姦婦
同罪ニ科ス、既ニ訟ルノ後ハ、私ニ遺念ヲ遂ルヲ得
ズ、第十五、放火スル者ハ、重罪ニ處ス、其盜犯ノ為ニ
放火スル者ハ、先例ニ依テ親子兄弟並ニ死ニ坐ス、

第十六、公事人アレバ、人ヲシテ之ヲ調和セシム、甲
ハ服シ、乙ハ服セザレバ、質對セシム、不服者、及テ罪
アレバ、其咎最トモ重シトス、第十七、謀書謀判ハ、嚴
科ニ處ス、執筆スル者同罪トス、

是歲點檢山林課税。山林改帳。美作鏡。

津山近郊一里内ノ地ハ、四面燥地一畝、或ハ四面半
地濕ヲ以テ一反ト為シ、二里内ハ五面燥地、或ハ五面半
地濕ヲ一反ト為シ、其他ハ凡テ六面ヲ以テ一反ト為
ス、而ノ其村位村位ハ三等ニ別ト漕運ノ便否ニ由
リ、之ヲ三等ニ劃テ、上等一反ニ銀一錢目二分ヲ課
シ、以下十分ノ二ヲ遞減ス、後數年ニシテ、山林二萬

卷之六 津山近郊 津山近郊 津山近郊

九千五百零九所、及別四千二百零一町餘、稅銀二十
三貫目餘ヲ得タリ、

二年^{丙申}三月二十八日、權僧正生順、寂于江戸。作陽詩。美作林。

生順本姓ハ漆氏、稻岡某ノ子ナリ、天正十五年、上河

内村^{大庭郡}ニ生ル、天資穎悟、嬉戯常ニ佛事ニ擬ス、甫

テ八歳、邑ノ別宮寺^{寛永十六年、生順之ヲ改ム、僧生盛ニ}

從フ、生盛勸テ僧天海^{慈眼大師ニ學バシム、天海生順ヲ}

見、歎ジテ曰ク、宗風ヲ闡揚スル者ハ、此田舎僧ナリ

ト、生順孜孜トシテ懈ラズ、遂ニ台門ノ奥旨ニ造詣

ス、嘗テ天海ノ命ニ從ヒ、精廬ヲ東叡山ノ東北ニ結

ビ、護國院ト名ヅク、寛永七年、幕府目黒瀧泉寺ヲ以

テ生順ニ附ス、一日、將軍家光、此ニ獵シ、愛鷹條ヲ脱
シ、適ク所ヲ知ラズ、家光心之ヲ惜ミ、本尊不動明王
ニ默禱ス、俄ニシテ翩翩来リ歸ル、是ヨリ生順益涯
遇セラレ、權僧正ニ補ス、寂ス年七十、

大和元興寺僧蓮尊、山城安樂院僧慈山、和田氏、或

ノ人、亦俱ニ本州ノ人ニシテ、日本高僧傳、行業

記、及び續日本高僧傳^{本州圓通寺僧ニ載セトモ}

姑ラク其傳ヲ略ス、

寛文元年^{辛丑}八月、改郡名。森氏雜記。地方書類。舊免狀。作陽古簡集。

上古六郡タリ、貞觀中、若田郡ヲ分テ、若東若西二郡

ト為ス、後其多^{元祿以後、多ク}郡ヲ割テ、吉野郡ヲ置

幸、勝田郡ヲ分テ、勝南勝北二郡ト為シ、久米郡ヲ久
 米南條、又米北條二郡ト為シ、又苦東苦西二郡ヲ割
 テ東南條、東北條、西條、西北條四郡ト為ス、至是、長
 繼其舊稱ニ據リ、西北條ヲ改メテ苦南、西條ヲ苦
 西、東北條ヲ苦北、東南條ヲ苦東、久米南條ヲ久米南
 久米北條ヲ久米北、勝南ニ勝田南、勝北ヲ勝田北ト
 為ス、昔、故郡外、分割及ビ改稱ノ年、偶々國史ニ載セ
 三月、二宮ノ鐘銘ニ西條郡、永祿五年八月、柵原村
 福田、左衛門政秀ノ造營セシ所、口、連石神社ノ原、
 勝田、勝南、八年十一月、毛利元就、油木村、上左衛
 門尉、久成、與ノル書ニ、久米北條郡、慶長七年九月、小
 早川、秀詮、出ス、知行、日録ニ、久米南條郡、久米北條
 郡、八年八月、森氏ノ郡吏、田熊村、八、出ス、所、免、
 勝北郡、九年、森氏ノ檢地帳ニ、東南條郡、東北條郡
 卜、為ス、ヲ見ル、ナリ、録シ、以テ後ノ參考ニ備フ、

靈元天皇寬文三年。癸卯十一月。長繼修營高野神社。森記
陽誌。

社ハ二宮村ニ在リ、慶長十一年、忠政ノ室羽柴氏之
 ヲ修ス、至是、長繼社殿ヲ造營シ、結構壯麗ヲ極ム、今
 社、即チ
 是ナリ、

四年。甲辰。吉野郡梶原村、劍關道路。森記

勝北郡ヨリ、赤田、古町諸村、吉野ニ抵ルノ間、金兒峠
 同郡、鷲アリ、其路險隘、人馬大ニ困ム、於是、新道ヲ關
 キ之ヲ便ニス、

五年。乙巳。六月七日、長繼奉幕命、拘高島長近。森記

長近、衛門、八池田長孝、備中守、備中ノ第五子ニシテ、

是年四月五日、江ノ在、番
 日、江ノ在、番
 森氏、老臣ヨリ、幕府ノ制
 美作、十郡ヲ
 ル、久米、二郡
 田、久米、二郡
 八、南、北、ノ、別
 ヲ、廢ス、ヘ、キ
 旨、通達セリ
 是、ヨリ、私ニ
 南、分、北、分、ノ
 稱、ヲ、加ヘ、テ

美作郡史 卷之三 十六 村談樓談

之ヲ區別セ
シコト藩臣
木村傳三郎
昌明ノ手記
ニ載セリ

森長繼夫人ノ弟ナリ、幕臣高島氏ヲ嗣グ、是年罪アリ、幕府其祿ヲ没シテ森氏ニ屬ス、長繼之ヲ城中ニ幽ス、元祿元年八月三日、幕府長近ノ罪ヲ免シ、江戸ニ送ル、長成厚ク旅裝ヲ備ヘテ之ヲ送ル、
七年。丁未。六月十三日。香香美川洪水。安黑家記。圓通寺縁記。
八年。戊申。十一月。長繼創建千年寺于苦南郡田邑村。森作

陽誌。

十一年。亥。三月十三日。長繼免古河與吉等田租。森記。帳。

長繼幼時英多村。香合勝田北。成松。是村。苦北。原。口。久米南。

全間、原、久米北、小山、并、村、苦西、原、村、六郡ノ地百六十石

ヲ領ス、俗領之ヲ部屋ス、是日、其領民古河與吉、原、口、村等

ヲ召シ、永ク田租ヲ免ス、俗之ヲ作リ、六月十一日、又取リト称ス、

平尾七兵衛、全間村人、等ノ田租ヲ免シ、凡テ百六十石

リ、ナ親シク七兵衛ヲ延テ、其欲スル所ヲ言ハシム、

七兵衛感泣再拜シテ曰ク、津山城下牛ヲ牽テ經過

スルヲ禁ズ、故ニ禾穀薪炭ノ運輸、皆人力ニ頼ルヲ

以テ、價額自ラ昂貴セリ、小人ハ南鄙ノ民、敢テ之ニ

関セザレドモ、衆庶ノ為ニ深ク之ヲ憂フ、請フ此禁

ヲ解カントトテ、則チ衆庶ノ幸福ニシテ、而ノ小人

ノ大願モ亦了ルト、長繼之ヲ善トシ、即チ禁ヲ解ク

延寶元年。癸丑。改苦南郡森村為澤田村。作陽

洪水。郷村沿革繪

萬治中、津山川ヲ浚鑿シ、船ヲ箱村西、西、郡、ニ通ゼリ、至

是、船路復壅塞ス、高田川大庭郡内野目木川河原村ノ
内、加茂川東北條郡等、皆水道大ニ憂ズ、

二年甲寅四月二十六日、長繼致仕長義嗣森果園、森記録。

是年二月、世子從四位下忠繼美作卒ス、子長成萬門右

尚幼ナリ、於是長繼次子長義伯耆守、幼名兵藏、既

立テ嗣ト為シ、而ノ長成ヲ子養セシム、五月二十六

日、長義將軍家綱ニ江戸城ニ謁ス、重臣森宗兵衛

神尾藏人止勝、百百玄蕃

四年丙辰四月二十五日、森長俊列諸候森系圖、森記録。

長俊對馬守、初ハ長繼ノ第三子ナリ、延寶二年七月、

祿一萬石ヲ領ス、明年十二月、從五位下ニ敘ス、至此

長繼長義ト謀リ、更ニ新田一萬五千石勝北郡ノ内

ヲ領テ、幕府ニ請テ諸候ニ列セシム、長俊乃チ可兒

正盛藤兵衛、橋本政辰善右ヲ以テ家老ト為ス、長俊、城

中藥研濠ノ東ニ在リ、江戸ハ目黒ニ在リ、

十月十五日、長義造楮幣森記。

銀一貫目、五百目、百目以下數種ヲ製ス、

六年戊午、神崎則休、斬暴人忠誠後繼。

則休與五ノ父光則善クス、勝南郡勝間田村下山氏

則休女ヲ娶リ、ハ森氏ノ臣ナリ、則休ニ日、從弟箕作十

兵衛ト共ニ林田ヲ過グ、一市人アリ、來テ十兵衛ノ

面ヲ撲ク、則休其非禮ヲ憤リ、追テ之ヲ斬ル、時ニ年

甫テ十四世人之ヲ壯トス、後光則故ノリテ、
 不、則赤穂城主淺野長矩ニ仕村ノ、
 俱ニ赤穂城主淺野長矩ニ仕村ノ、
 遠ニ、遂ニ大石良雄等ト共ニ主仇ス、
 年二月四日、水野監物ノ邸ニ自裁ス、
 常成三十七、十、平氏ニ仕テ、
 醫ヲ以テ津山藩松平氏ニ仕テ、
 七年、十一月、令封内植楮。吹日記録。夫
 長義、楮苗ヲ封内ニ頒テ、毎戸一株ヲ植ヘシム、
 是歲、疏鑿佐良川。郷村治
 先是、佐良川ハ一方村ヨリ井口村南條郡、
 シテ、津山川ニ入ル、至是一方村ノ地百八十間ヲ鑿
 テ、徑ニ之ヲ津山川ニ注ク、
 大塚左門三村伊織切諫長義不納、遂致祿去。山岡家記

記。

長義嘗テ江戸ニ在リ、横山刑部左衛門ヲ以テ近侍
 ト為ス、其家ヲ繼グニ及デ、刑部左衛門ノ資格ヲ進
 ノ、樞要ヲ委任ス、長義乃チ之ト謀リ、己ガ叙任ノ昇
 進ヲ希ヒ、數閣老ヲ其邸ニ請待シ、賄賂百方、國用窮
 竭ス、於是士祿及ビ社寺領ヲ減省ス、士祿及ビ社寺
 扶持給ハ十分、延寶三年五月、國ニ就キ、馬放鷹
 獵等奢侈至ラザルナシ、士民怨嗟ス、重臣大塚左門
 祿二千石、三村伊織祿千石數諫争スレドモ聽カズ、二人
 遂ニ辭シ去ル、

天和元年、辛酉令鑿羽出村銀墳。陽

羽出村條西郡葛籠山ニ銀墾アリ、文祿以前開鑿シテ

之ヲ採ル、世ニ羽出銀ト稱ス、至是長武長武改名ノ復之

ヲ鑿タシメ成ラズシテ止ム、西條郡、住日、神泉、銀

或ノ富商道珍ナル者、久田上、原村、陽誌、銀藏アリ、

二年、士改郡制為十郡、森氏雜記、地、方

是年幕府其郡制ニ美作ハ十郡ト為スヲ以テ命ジ

テ之ヲ改メシム、長武乃チ久米勝田ノ南北ノ稱ヲ

廢シ、凡テ十郡ト為ス、按ニ、是時南北ノ別、廢スベカ

書ハ、特ニ勝田郡又米郡ト稱シ、其他

ハ皆南分北分ノ稱ヲ用テ之ヲ分ツ、

天和中免二宮村民太郎助罪、森氏雜記、美

太郎助、母ニ事ヘ至孝ナリ、母死シテ厚ク葬リ、費用

償フ能ハズ、竊ニ菅繩手村ニ宮、小田中ニ行松ヲ伐

テ之ニ充ツ、既ニシテ事覺ハレ、捕ヘラル、吏之ヲ詰

ル、對ヘズ、吏將ニ鞠問セントス、太郎助意ヲ決シ首

伏シテ曰ク、老母死シテ葬資ナシ、因テ意ヲク、民木

ヲ伐ンカ、其罪輕シ、只此レ、民ニ害アリ、官木ヲ伐ン

カ、其罪重シト雖ドモ、僅僅兩三株ノミ、官ニ於テ何

カ有ラン、是レ重罪ヲ顧ミズシテ官物ヲ盜伐スル

所以ナリト、後肯テ言ハズ、又飲食セズ、吏之ヲ藩ニ

告グ、藩其生平ノ性行ヲ嘉ミン、乃チ之ヲ免ス、美作

記、寬文中ノ事ト為ス、然ドモ行松ハ延寶八年始ム、

植ル所ナルヲ以テ、雜記ノ說ニ據リ、天和中ニ改ム、

貞享二年、モ正月十一日、津山城有怪、森家全

津山近郊、恠異多シ、是日、城中烟起ル、宛然失火ノ如シ、士庶駭走ス、暫クシテ滅ス、二月二十二日、夜空中光アリ、日ノ如シ、於是、蜚言アリ、國政苛察、士庶怨讟、且横山等長成君ヲ呪咀ス、是ヲ以テ天此咎徴ヲ見ハスト云フ、

三年、丙寅六月三日、長武致仕、長成嗣。森系

長繼、長成ノ稍長スルヲ以テ、長武ニ命ジテ致仕セシム、長成嗣グ、年甫テ十六、七月朔長成將軍綱吉一

明、森正方、各務三右衛門、正直之、從

東山天皇、元祿元年、戊辰七月、長尾勝明、修院莊舊跡、作陽誌、森

氏雜記

勝明、出雲國人、共一子、祿四十年、森氏國除ノ後、學識超

倫、夙ニ院莊舊蹟ノ荒廢ニ厲スルヲ傷ム、是年、乃チ

長成ニ請ヒ、新ニ櫻樹ヲ栽ヘ、石碑ヲ建テ、又石誌ノ

説ヲ作テ、邑ノ清眼寺ニ藏ム、曰、東魚西鳥相食以降、

海内鼎沸、勇猛豪傑、奉詔討賊、豈違枚擧哉、然世衰俗

非、毀志操者、比比皆然、當是之時、我兼文武節、全始終

者、備後三郎高德、此其人也、元弘二年、皇帝蒙塵、六龍

出洛、會駐院莊、高德開行、詣于行在、上言無路、因刮庭

上之櫻、書語於其上、果歷天覽、雄備之言、俾百世之下

懦夫激昂、因以興起矣、矧野戰驍悍、勤勞最多、施到于

南北分裂、唱義誘衆、涉險被剗、厥心愈確、未嘗可動、方

之且則左祖、暮則右祖、趨利避害、以謀偷生者、豈翅薰
藉相判哉、余政務之暇、過於院莊、乃視乘輿所駐、藜藿
塞路、櫻亦不存、孰不傷懷哉、是歲秋、告國君、新開一路
且樹以櫻、今又作銘刻誌于石、然而他日有路沒樹、枯
石誌亦以剝落、則荒廢復猶今乎、是故余留斯文、以俟
後之人、後之人有與我同志、繼絕興廢者、庶存此於無
窮、不亦善乎、高德距今三百年餘、耀武烈於當世、此忠
誠所致、而丈夫所榮也、嗚呼、高德何等、人、憶之至此、况
於優高德者乎、覽者以為勤、則彼焉足、畏、勉、旃、勉、旃、遂
記貽之清眼寺、昔貞享五年、龍集戊辰、秋九月上浣、作
陽執事、長尾隼人源勝明、

八月十日、長成浴勝田郡湯鄉村温泉。森記錄。森家全盛記。矢吹日記。

是年六月、長成始テ國ニ就ク、精ヲ勵シ治ヲ圖リ、勢

ヲ煩苛ヲ除ク、至是、輕裝湯郷ニ赴キ、留浴一週日ニ

シテ還ル。先是、森氏入浴ノ為シ、茶室ヲ湯郷ニ設ク、河野五郎太夫ヲ守ラシム。

二年、己巳春、長成命、長尾勝明、編作陽誌。作陽誌編輯社記。

勝明命ヲ奉シ、江村宗普、河越玄俊ヲシテ稿ヲ起サ

シ、自ラ之ヲ監裁ス、宗普乃チ西六郡ヲ編纂シ、六

年ニ至テ稿ヲ脱ス、玄俊東六郡ヲ編輯シ、未ダ成ラ

ズシテ、國除ス。宗普春軒ト号ス、京師ノ人、貞享四年、

客俸ヲ給ス、後細川氏ニ病仕、以テ純ト改ム、元

六月六日、支封關長政致仕、長治嗣。關家記。

長政子ナシ、長繼ノ子長治大藏、初ヲ養ヒ嗣ト為ス、

三年庚午。五月、令諸寺定本寺。森記錄。上作陽誌。

寺院本寺ナキ者多シ、於是之ヲ定メシム、

夏旱。大雩于德守神社。小原家記。

五年壬申。置茶肆于苦西郡養野村。森記錄。地方書類。

伯耆通路、養野、百谷二村西條郡、一間、百谷峠アリ、人家

斷絶ス、冬コリ春ニ涉リ、積雪路ヲ埋メ、人馬往往凍

餓ス、是年、森氏始テ茶肆ヲ置キ、行旅休憩ノ處ト為

シ、米三石ヲ給ス。按ニ真島郡四十曲、大庭郡三坂、山勝北郡黒尾峠ニ茶肆ヲ置ク者、蓋

シ亦是時ナラシ乎

六年癸酉。正月二十七日。町野加右衛門、斬藤田孫之進。森記

錄。森家全盛記。

加右衛門百石、初休助ト稱ス、父加右衛門、曾テ長成

ノ傳ト為リ、勤勞アルヲ以テ、亦近侍ト為リ、加右衛

門ニ更ム、性剛直、恒ニ同僚藤田孫之進百石、ノ佞邪

ヲ惡ム、是日、室ヲ隔テ孫之進ノ長成ニ勸ムルニ放

逸ヲ以テスルヲ聞キ、憤恚ニ禁ヘズ、遂ニ之ヲ城中

松ノ段ニ要殺シ、家ニ歸テ自殺ス、

七年甲戌。七月。長成浴温泉于苦西郡奥津村。森系圖。森記錄。

是月二十一日、津山ヲ發シテ奥津ニ抵リ、留浴三週

日ニシテ乃チ還ル。十年二月、長成復此ニ浴ス。

八年乙亥。九月。移硝庫于佐良村。森記錄。森家全盛記。

慶長以還、火禁ヲ山北村ニ藏ス、其地人家ニ接近ス
ルヲ以テ、長成、梶川當秀與一衛、林直一又兵ニ命ジテ
之ヲ佐良村條久米郡、南ニ移サシム、當秀等、是月十二日
ヨリ、十月二十五日ニ至テ之ヲ終ス、量凡ソ二十萬
石、後元祿十六年、津山藩主松平氏、佐良村ハ甲府徳
川氏ニ隸スルヲ以テ、之ト謀リ、硝庫所在ノ地ヲ
割テ、封内一方村ニ屬シ、而屬ス
方村ノ地ヲ分テ、佐良村ニ屬ス、
十月、長成奉幕命、築狗廬于武藏國中野村。森家全盛
記、森記録。
將軍綱吉、狗ヲ愛シ、畜養數萬ニ及ブ、於是、長成ニ命
シテ、狗廬ヲ築カシム、長成、辞スル能ハズ、是月十八
日、初テ土木ヲ興シ、開式部、可見又右衛門等ヲシテ
役ヲ董サシム、十二月四日、功成ル、地積十二萬二千

六百步、狗廬二百八十九、飼舍百四十八、竈舍、碓舍、谷
四、監舍若干、雇役九十三萬五千零九人、雇給三萬九
千百六十六兩、其他經費數ヲニ勝ユベカゾズ、十五
日、綱吉長成ニ時服十領、式部又右衛門、及ビ橋本藤
左衛門等ニ時服白銀各若干ヲ賜フ、十八日、長成侍
從ニ任ズ、

是歲、關新道于三崎河原村。郷村沿
革繪圖。

官道三崎河原村大庭ニ險阪アリ、上下九十六間、人

馬皆困ム、久世村同郡、金田市左衛門、金若干ヲ出シ、坦

路ヲ其下ニ開ク、久米南條郡小折、金屋ニ村ノ新、路ヲ
撤、此ア、登下六町餘、因テ新、路ヲ

山麓ニ通ズル者、元祿七年ヨリ十五年ニ至ル間、
事ニ係リ、年月人名ヲ詳ニセズ、録シ以テ後ノ備考

九年丙寅五月十八日長武卒于江戸森記圖

長武延寶二年十二月從四位下ニ叙ス、病革ニ及テ、

其米地貞享三年長成廩米二萬石ヲ供シテ、養老ヲ

弟長基小十郎、初主殿、真島ニ讓ルヲ請フ、卒ス年五

十二法謚圓明、東殿山、先是長武幕府ノ元老、柳澤吉

保ニ依テ一家ヲ興ント欲シ、事覺ハル、七月十七日、

長基江戸ニ詣ル、二十六日、幕府森長俊、關長治及ビ

長基ヲ召シテ曰ク、長武奸謀アルヲ以テ、其遺祿ヲ

收メ、之ヲ宗家ニ還附スト、於是長成横山刑部左衛

門等ヲ放シ、

十年丁丑三月長成賑飢民森記

是年無産ノ徒、流離シテ津山ニ来ル者多シ、森氏は

月十九日ヨリ、五月十三日ニ至ルマテ、麥粥ヲ炊キ、

一萬四千人ニ賑ハス、

六月二十日長成卒森系圖、森記、森記、森記

長成貞享三年十二月從四位下ニ叙シ、美作守ニ任

ズ、元祿八年十二月侍從ニ任ズ、是年三月津山ヲ發

シ、四月二日江戸ニ詣ル、病ニ罹リ遂ニ起タズ、年二

十七法謚雄峯、芝祥、終リニ臨ミ、關衆利部ヲ養フヲ

請フ、長成資性仁恕、政ヲ為ス清約、下ヲ撫スルニ恩

信ヲ以テス、二十七日訃至ル、内外哀惜セザルナシ

七月十一日。関衆利至伊勢。發狂病。森記錄、森家全盛記

衆利初大助、長ハ長成ノ叔父ナリ、老臣関衆之ノ嗣

ト為リ、式部ニ改稱ス、長成卒後二日、閣老土屋政直

藩士真田忠晴平左衛門、ニ内諭シ、衆利ヲシテ速ニ東上

セシム、於是、淺尾義權太左衛門、今西高平平兵衛、日夜兼

行シテ之ヲ報ズ、是月四日、衆利乃チ津山ヲ發シ伊

勢名生村ニ抵テ、俄ニ瘋狂ヲ病ミ、進ム能ハズ、阿坂

五郎兵衛、加藤治右衛門、之ヲ東西ニ報ズ、長尾勝明

原一益十兵衛、等、乃チ之ニ赴ク、長繼、江戸ニ在リ、報ヲ

得テ親族鳥井忠秋、保科正祥ヲシテ、衆利中途病ニ

罹ルヲ以テ、參府ノ期ヲ延ント、請フ、幕府許サバ、長

繼即チ其臣橋本卓親藤左衛門、伴利貞平太左衛門、及ビ醫師

益田道榮等ヲ伊勢ニ遣ハシ、強テ扶ケ来ラシム、竟

ニ發スル能ハズ、長尾勝明、東馳シテ之ヲ告グ、於是、

長繼其祀ヲ絶ツヲ恐レ、土屋政直ニ就テ書ヲ上ル、

其略ニ曰ク、長成ノ嗣子衆利、遂上病ニ罹リ、劇熱猛

症常ニ非ラズ、若シ病快復スルモ、亦當甘ニ奉仕ニ

任ヘザリントス、惟ルニ先考忠政、東照公ニ從ニ、戎

馬ノ勞アルヲ以テ、辱ク、美作ヲ賜フ、爾來因襲長成

ニ至ル、而テ長成夭折シ、衆利劇病ヲ患フ、豈ニ天ナ

ラズヤ、政テ哀ヲ乞フノ道ナキナリ、雖然、老臣年已

ニ八十有八、此餘喘ヲ以テ、一俟、絶祀、士庶流離ヲ視

ルニ恐ビズ、幕府明恕先臣ノ微勞ヲ祿シ、骨肉ヲ以テ嗣ト為シ、先祀ヲ存スルヲ得バ、幸甚明年七月十日、長繼江テ卒ス、法謚シ

八月二日、森氏國除。森記錄、國朝、日章錄。

此日、幕府長繼ヲ召テ曰ク、衆利狂疾ノ故ヲ以テ、美作ヲ没収ス、然レモ特ニ長繼延寶三年、東北條、西北條、大庭、真島、四郡ノ地ニ萬石ヲ分テ、ニ祿ニ萬石ヲ賜フト、二十六日、長繼養老料トス、季子長直和泉守ヲシテ之ヲ襲ガシム、

十月十一日、幕府收津山城。森記錄、森家全盛記。

幕府、田村建顯陸奥一關藩主ヲ以テ上使トシ、松平直明播磨、酒井忠圓若狹小藩主ヲ以テ收城使トシ、松平綱長

安藝、ヲ以テ城番トシ、而テ大目附水谷勝信彌地之助、國主、中坂部目附赤井平右衛門、仁賀保孫九郎、代官竹村惣左衛門、守屋助次郎、岡田五右衛門ヲ差遣シ、諸事ヲ辦理セシム、是月四日、平右衛門等津山ニ抵ル、七日、忠圓從者六十人、押入村東南條郡ニ至ル、九日、直明從者七十人、河邊村勝南條郡ニ至ル、十日、建顯從者千人、勝信從者二百人、亦河邊村ニ至ル、先是、綱長ノ老臣淺野高直伊織、從者四百人、院莊村西條郡ニ到ル、於是建顯、長尾勝明、原一益ヲ召シ、告ルニ收城ノ期ヲ以テス、十一日、辰、建頭直明南門ヨリ、忠圓北門ヨリ、齊ク城ニ入ル、森三隆、長尾勝明、乃チ版籍及ビ印書ヲ還納ス、十三日、高

直代テ城ヲ成ル、建頭直明等、即チ津山ヲ發シテ、江
戸ニ歸ル、

十九日、幕府賜森長直、森長俊、関長治、采邑。森記録。森家全盛記。

是日、備中江原二萬石ヲ長直ニ、播磨三日月一萬五
千石ヲ長俊ニ、備中新見一萬八千七百石ヲ長治ニ
賜ス、

十一月十五日、幕府賑森氏士卒。森記録。森家全盛記。

赤井平右衛門、仁賀保孫九郎等、幕命ヲ奉シ、森氏ノ
重臣ヲ召シテ曰ク、國除ノ家臣ヲ救卹スル、其例ナ
シト雖、森長繼及ビ森三隆、長尾勝明ノ歎訴ニ因
リ、特ニ舊高五百石以下、卒隸ニ至ルマデ、一百五十

日間、舊祿ニ仍テ之ヲ賜ラト、二十日、乃チ倉庫ヲ開
キ之ニ賑ハス、

美作略史卷之四

津山 矢吹正則 著

男金一郎 校

元祿十一年貞正月十四日。松平長矩封于本州。松平系圖。松平

長矩備前守ハ光長ノ嗣子ナリ、津山十萬石勝南、東南、東北、西

條、大庭、真島、八郡ノ内ニ封セラレ、國主ニ准ス、乃チ

其臣伊藤恭和郎、八藤本貴重十兵衛、馬場真房殿、石

戸田久雄源五右衛門、入江恭純吉左衛門、長澤好治又左衛門、平井

茂喬五郎右衛門、等ヲ津山ニ遣ハシ、城邑ノ収領ヲ謀ラ

シム

松平氏ハ、東照公ノ第二子秀康ヲ以テ始祖ト為
 三、秀康正三位權中納言ニ任ジ、越前北莊七十五
 萬石ヲ領ス、長子從三位參議忠直、元和九年、故
 リテ豐後府内ニ配セラハ、嫡子從三位右近衛權
 中將光長、越後高田ニ移リ、二十五萬石ヲ食ム、天
 和元年、事ニ坐シ伊豫松山ニ幽セラハ、幽中米一
 萬石ヲ給
 一、貞享四年、免サレテ江戸柳原邸ニ歸ル、粟粟三
 萬石ヲ賜フ、元祿十年、退隱シ長矩ヲシテ藤ガ
 山、光長、後寶永四年十一月、
 江戸ニ薨ズ、享年九十三、
 春、復改郡名。元祿地方帳大
 谷氏藏明細帳。
 幕府ノ記録ニ、勝田久米二郡ハ、皆南北ノ別ナク、而

テ陰ニ別アリ、其施為スル所口亦以テ便ナリトス、
 於是、赤井平右衛門、守屋助次郎等、幕府ニ建議シ、改
 テ十二郡ト為シ、寛文以前ノ稱ニ復ス、
 五月二十五日、長矩收津山城。安藤家記。
 大熊家記。
 是日、老臣渥美女榮權左衛門、祿
 千五百石、大熊昌俊六左衛門、
 祿千石、
 伊藤恭和、藤本貴重等ト共ニ城ヲ收ム、明日、赤井平
 右衛門、仁賀保孫九郎、淺野伊織等、皆津山ヲ發シテ
 歸ル、
 是月、幕府置官廨于英田郡倉敷村。松平記錄。郷
 村引渡書。
 幕府、松平氏ニ津山ヲ與ルヲ以テ、代官竹村惣左衛
 門、守屋助次郎、岡田五右衛門ヲシテ、倉敷村ニ移リ

村録

治七シム、四年夏、管地率、左衛門、五右衛門、所領、歸、十
六月、助、次、郎、乃、代、官、而、與、一、左、衛、門、二、北、シ、テ、歸、ル、
後、綱、豐、ノ、臣、平、岡、孫、市、此、ニ、移、リ、幾、ナ、ク、シ、テ、土、居、村、
武、井、善、八、郎、之、二、代、官、堀、内、六、郎、兵、衛、此、ニ、移、ル、四、年、
代、八、六、年、内、山、七、兵、衛、十、六、年、萬、年、石、原、新、十、郎、又、之、二、
田、喜、八、郎、元、文、四、年、松、風、考、五、郎、延、享、元、年、根、岸、木、工、
左、衛、門、三、年、正、月、藤、井、九、左、衛、門、寬、延、二、年、八、月、藤、沼、
源、左、衛、門、寶、曆、三、年、三、月、藤、木、甚、助、六、年、飯、沼、伊、兵、
衛、十、一、年、平、岡、彦、兵、衛、相、代、テ、管、治、ス、明、和、
三、年、三、月、森、俊、春、ノ、所、管、ト、為、リ、遂、ニ、廢、ス、

九月、幕府置官、解于吉野、郡古町村、及久米北條、郡坪井

下村。地方書類。代官所設置調書。

是月、幕府其邑ヲ三分シテ、代官内山七兵衛ニ吉野

一、英田、田原山城、餘瀬戸、平野、勝北、内村、等、河三、郡、
西與一左衛門、二勝南、村、久米南條、福田、高、久米北

條、山、手、公、大、南、方、坪、井、真、島、鹿、田、木、山、栗、四、郡、管、七
シム、七、兵、衛、古、町、村、二、治、ス、贊、永、四、年、致、仕、ス、五、年、近
小、左、衛、門、之、二、代、官、元、新、左、衛、門、又、之、二、代、官、右、衛、門、又、之、
二、代、官、元、新、左、衛、門、又、之、二、代、官、右、衛、門、又、之、
衛、門、轉、任、シ、遂、ニ、廢、ス、與、一、左、衛、門、坪、井、下、村、ニ、治、ス、
元、標、十、五、年、九、月、坪、井、下、村、内、藤、政、森、ノ、所、領、ト、為、ル、
居、村、ニ、移、リ、治、ス、

十一月、松平綱國、徙居于津山。松平系圖。松平

綱國、三、河、守、光、長、ノ、弟、永、初、萬、德、丸、ト、稱、ス、光、長、ノ、嗣
ト、為、リ、從、四、位、上、ニ、叙、シ、侍、從、ニ、任、ズ、天、和、ノ、初、事、ヲ
以、テ、備、後、福、山、ニ、幽、セ、ラ、ル、幽、中、米、三、千、貞、享、四、年、免
サ、レ、テ、柳、原、邸、ニ、歸、ル、至、是、長、矩、綱、國、ヲ、シ、テ、先、ツ、封
土、ニ、就、カ、シム、老、臣、安、藤、之、常、鞆、負、祿、及、ビ、伊、達、宗、繼

與兵等從ヒ至ル、網國人ト為リ恭謙、初ノ男國近之
衛、後、ヲ舉ゲドモ、之常ヲシテ之ヲ子養セシノ、敢テ
富貴ヲ規ラズト云、綱國、城北宮川、第二居ル、薙髮シテ更山ト號ス、享保二十年三月
卒ス、壽七十有四、先是、長矩國近ニ祿千石ヲ給ス、其
子造酒助近倫、永見氏ヲ冒ス、明治三年ニ至テ、松平
氏ニ復ス、宮川第八宮川ノ西岸ニ沿ヒ、北松原ノ南
ニ在リ、此編ヲ修ムルニ當リ、文政三年ノ耕地圖ヲ
開スルニ、地若干ヲ劃シテ、更山君御居間跡ト稱シ、
耕畝セザルノ地ト為ス、而テ今湮滅シテ其處ヲ詳
ズ、ニ、七

是歲始悉用印為證。矢吹藏古書。

先是大庄屋肝煎及ビ庄屋ハ公私ノ別ナク、物ヲ證
スルニ印章若クハ華判ヲ以テス、而テ細民ハ率子
華字或ハ環形ヲ畫テ之ヲ證セリ、至是始テ盡ク印

章ヲ用テ證ト為ス、

十二年卯三月二十七日、誅兇民八人。松平記類。

十年ノ徵租ハ幕制五民公夕リシヲ以テ、之ヲ松平氏

ノ租法六民公ニ比スレバ稍寛ト為ス、去年高倉村東

條四郎右衛門、佐右衛門、高野本鄉村東、南、作右衛門

等、幕制ハ如クセンヲ乞フ、郡代畑田治部左衛門、山

田仙右衛門當時郡代町奉行各二人、幕府ト諸藩ハ

租法ニ別アルヲ以テ聽サズ、四郎右衛門等、以為ク

衆力ヲ藉テ強請スルニ若カズト、自ラ倡首ト為リ、

十一月十一日、津山城下ヲ侵ス、藩乃チ士卒ニ命ジ

テ四郎右衛門等ヲ捕フ、至是四郎右衛門ノ兄堀内

三郎右衛門大庄屋之ニ與カルヲ以テ并セ誅ス

十二月二日。定大庄屋俸給。松平記録。地方書類。

先是森氏大庄屋五十餘人ヲ置キ、年俸米八石ヲ給

シ、一人ノ所轄凡五千石ト為シ、而テ其門望アル者

ニ任ジ、之ヲ世襲シ、上ニ阿諛ナク、下ニ輕慢ヲ生セ

シメズ、至是長矩封内ニ就キ、仍テ其二十人立石五

郎右衛門、院在村江川四郎左衛門、塚谷村櫻井七右

衛門、田邑村土居七郎兵衛、田邊村七居藤七、富村廣

山孫左衛門、目木村福島善兵衛、上河内村近藤忠左

衛門、湯本村美甘三郎左衛門、香々美中村岸新兵衛

一宮村中島孫左衛門、山北村大谷九右衛門、野介代

村香山太郎兵衛、押入村岸本又三郎、綾部村多胡勘

右衛門、一方村菫月六郎右衛門、津村三浦市郎右衛

門、三家村進ヲ用ヒ、年俸米十五石ヲ給ス、而テ其十

石ヲ官ヨリ給シ、五石ヲ民費ニ課ス、故アリ、罷ム、香

香美中村中島多右衛門、大篠村安黒和右衛門ヲ以

テ之ニ代フ、其他解職スル者ハ、率ホ封土ノ轉換ニ

相ル

十三年。秋。幕府命長矩正國圖。松平記録。地方書類。

幕府長矩ニ命ジテ、正保中、森氏ノ調進セシ所ノ地

圖ニ就キ、道路河流ノ同異ヲ正サシム、藩臣小島廣

憲、新門五右、鈴木辰成、大等、乃チ諸郡ヲ巡視シ、明年

二月、新圖ヲ製シテ之上ル。

十四年。辛。德川綱豐領勝南郡等。松平記録。地方書類。矢

談。

綱豐甲府中勝南勝開田畑屋瓜生原倉見行久米南

條山佐良高尾荒神久米北條宮尾錦織足山久米真島
鹿田惣木山富尾四郡ノ中ニ就キ八萬六百二十七
石餘ヲ領ス九月其臣竹田政為源左衛門來テ之ヲ收ム
平岡好道孫石原七右衛門尋テ至リ政為ハ宮尾村
ニ好道ハ木知今原村ニ治ス大庄屋十五人村勝間田
右衛門大戸村直原猪右衛門原田村稻屋與三右衛
門錦織村堪増伊兵衛宮尾村池田次郎左衛門宮部
村大林平兵衛草加部村福島孫右衛門鹿田村辻新
次郎ヲ擧ゲ年俸米二十四石ヲ給ス明年近山清為兵
代リ勝間田村ニ移リ治ス後堀内六郎兵衛櫻井孫
兵衛赴任シ孫兵衛ハ鹿田村ニ治シ六郎兵衛ハ木
知今原大戸及ビ倉敷村等ニ轉治ス寶永元年綱豐
將軍綱吉ニ養ハレ江戶西城ニ入ル目テ西丸領ト
稱ス六年立テ將軍ト為リ家宣ト改ム是ニ於テ其
領邑悉ク幕府ニ歸ス清兵衛等仍ホ之ヲ管ス清兵

衛後清右衛門ト稱ス

十一月。浚香々美川。通船願書。岸新

板屋九右衛門人津山美濃職隅屋十右衛門人同堺町津

山川ヨリ船ヲ香々美中村條郡ニ通セント欲シ資

ヲ捐テ、香々美川二里二十九町ヲ浚鑿ス

十五年。三月。浚高田川。浚川願書。通船

山口勘右衛門元住江戶ノ人津山ニ高田川十一里餘

真島郡高田村ヨリ大ヲ浚鑿シ山中數十村ノ運輸

ヲ便ニセント請フ藩之ヲ許ルス。按ニ其功ノ成否

ハ之ヲ問ク近時此川ヲ浚ルニ當リ往々巖石ニ鑿

痕ヲ存スル者アルヲ見ルト目テ以其浚鑿セシヲ

大知ル

六月六日。長矩就封。松平記録。

長矩州ヲ領シテヨリ茲ニ五年始テ封土ニ就ク。明

三月十八日。東上ノ後隔年東上スルヲ以テ恒例ト為ス。松平記録。

七月二十八日。大風洪水。松平記録。風水居書。

津山藩封内、家屋五百二十ヲ覆シ、耕地高八百六十

石ヲ流シ、一萬五千石ヲ害ス、其他木竹ノ損害數ヲ

ルニ勝ユ可ラズ。

九月内藤政森領久米北條郡内五千石。松平記録。福

政森山城守上野安中城主寛延二年右近代官西與

一左衛門ノ所管久米北條郡ノ内十二村坪井、南、下、上、色

等ヲ領ス。是月二十三日、郡奉行杉山甚左衛門鶴沼

長兵衛中里長藏等領邑及ヒ麻舎坪井下村ヲ收メ

大庄屋二人坪井下村福本左衛門ヲ撰用ス、明年

又縣北郡高圓行方等十餘村ヲ領ス、五年北條縣ニ隸ス。

是月、幕府置官癖于英田郡土居村。代官所設置調

幕府内藤氏ニ坪井村等ヲ與ルヲ以テ、西與一左衛

門ヲシテ土居村ニ移リ治セシム。寶永四年、平岡孫

代リテ治ス、正徳三年、岩出彦兵衛之ニ代ル、享保九

年、保木左太郎又之ニ代ル、元文三年、左太郎病死ス、

池田喜八郎、平岡彦兵衛乃之ヲ兼又、明年、水野彦

四郎赴任ス、明年、曾根五兵衛之ニ代ル、寛保三年、小

野左大夫又之ニ代ル、延享元年、根岸木工左衛門又

之ニ代ル、秋末工左衛門倉敷村ニ移リ治ス、於是

是歲、藩置所庄屋。松平記録。地方書類。

津山ノ市人、近郊ノ地ヲ耕ス者多シ、於是藩町作庄屋ナル者ヲ置キ、其租税ヲ司ラシム、

十六年。癸未。春、長矩巡視封内。中山氏藏。中西家記。八月十三日、長矩拘老臣小須賀帶刀。藩士山。變技書。

帶刀百石、五政ヲ執リ多ク處置ヲ失フ、一藩怨望ス、

長矩乃チ其職祿ヲ褫ヒ、渥美文榮伊藤恭和ニ命ジテ帶刀及ビ其子一學ヲ拘セシム、享保五年五月十日、老臣渥美岡

書罪アリ、職祿ヲ褫ヒ之ヲ故ツ、是ヨリ先、後、藩臣ノ賞罰頗ル多シト雖トモ、率ニ累ニ從フ、

寶永元年。甲申。二月、中山神社行千年祭。中山社記。

社記ニ云ク、慶雲二年ノ創建ナリ、爾來百年ゴトニ大祭ヲ行フト、

三年。丙戌。錦織村民鑿池于下打穴下村。村上家記。

錦織村久米北小西田ノ地水ニ乏シク、毎ニ旱害ヲ

被ル、是年村民其隣邑下打穴下村同ノ民ニ謀リ、池

ヲ下打穴下村暮坪ノ地ニ鑿テ、以テ水ヲ小西田ニ

通ジ馬ニ漑グ、代官近山清右衛門西丸以謂ラク、先

國主森氏ハ、池敷所在ノ村ニ於テ其租ヲ免スルヲ

以テ、往々紛議ヲ生セリ、寧口其水ヲ用ユルノ村ニ

就テ之ヲ免シ、其地ノ所屬タルヲ明カニスルニ若

カズト、因テ幕府ニ建議シ、池敷地高六石餘ヲ錦織

村ニ免シ、而テ錦織村ヲシテ其地租及ビ諸税ヲ下

打穴下村ニ辨償セシム、

五年。戊子。二月。貢徭金。慶弘記聞。

去年十一月。富士山噴火シ、灰砂ヲ降ダス、駿河遠江諸州、堆積七八尺、若クハ一二丈、幕府乃チ天下ノ高百石ニ金二兩ヲ課シ、以テ之ヲ除ク、於是幕邑及ビ津山藩等、皆之ヲ貢ス、

十一月。小川恒克著忠誠後鑑錄。忠誠後鑑錄序。

恒克忠右衛門藩ノ留守役ヲ以テ江戸ニ寓ス、大石良雄等四十七士ノ傳ヲ蒐輯セント欲シ、見聞ニ隨テ筆録ス、至是全部十卷稿ヲ脱ス之ヲ藩主ニ上ル、

中御門天皇寶永七年。庚寅。八月。宣富定放鷹漁獵之地。松平記。

宣富長矩改名、森氏ノ制ニ倣ヒ、遊獵ノ地ヲ定ム、但津

山川及ビ高田川ニ漁スルヲ禁セズ、

閏八月。大震。松平記錄。

人畜多ク死ス、

正徳元年。辛卯。二月。湖又震。松平記錄。

三年。癸巳。廢幕邑大庄屋。辻家譜。

享保元年。丙申。二月。饑。宣富賑之。地方書類。

封内饑ル者八千五百餘人、宣富場ヲ津山、久世ニ設

ケ、鹽若干ヲ賑ハス、

二年。丁酉。三月十日。宣富許大庄屋稱氏。松平記錄。地方書類。

先是大庄屋ハ公事氏ヲ稱スルヲ許サズ、元祿中、騎

馬佩刀ヲ許ル至是又此命アリ

是月巡見使至松平記録

松平與左衛門落合源右衛門等之ガ使タリ初ノ見使

廻上使ト稱ス諸藩ノ侍遇亦甚ク厚シ寛永ノ初市

橋伊豆守柘植平右衛門巡視ス森氏郡奉行ヲ以テ

九月美作鬢鏡刻成美作

林盛龍州人ニシテ所在詳ナ幕藩ノ所轄ヲ區分シ

每村吏名草高及ビ名勝舊蹟等ヲ記録シテ小冊子

ト為シ梓ニ上テ鬢鏡截スル所口領主松平越後守

鹿田村一萬九百石餘飯塚孫次郎所轄高田村七十

二百石餘前島小左衛門所轄古町村四萬六千八百

石餘岩出寺兵衛所轄土居村五萬石餘武井善

八郎所轄倉敷村三萬二千九百石餘誕生寺領六十

寄十三人年寄

六年辛卯二月七日宣富卒子淺五郎嗣松平系圖

宣富ハ陸奥白河城主松平直矩大和守忠直ノ弟第

二子ナリ初源之助ト稱シ長矩ト名ク元祿六年十

二月光長ニ子養セラレ七年十二月從四位下二叙

シ左衛門督ニ任ス八年十二月備前守ニ遷ル十年

十二月侍從ニ任ズ十二年十二月左近衛權少將ニ

轉ズ寶永五年正月越後守ヲ兼ヌ六年十一月宣富

ト改稱ス卒ス年四十二法謚源泉城西世子淺五郎

六浦江戶ニ在リ封ヲ讓ケ十年十二月朔始テ將軍

吉宗二謁、重臣大熊監物昌名、安藤勘負之幸、黒田

夫殿安、山田主膳榮土、笹木兵右衛門正勝、伊達與兵

衛為澄、從之吉宗二謁、○涅繁寺、後泰安寺二改、

八月。大風洪水。水記録。水屆書。

七年。壬寅。春。饑。淺五郎賑之。記録。平。

五月二十五日。幕府裁和氣山論。山論。書類。

先是四年七月朔。幕邑十五村。代官岩出彦兵衛所管

仁、中原、金井、西吉田、新田、福力、池个、原、宮山、馬、民、津

山、封内十一村。井口、川、遠、園、分、寺、日、上、川、崎、太、田、民

テ、二十餘人ヲ傷ツク。五年、津山領民。日見三村中庄屋

田村中庄屋本郷小之ヲ幕府ニ訟フ。幕府乃チ土井

伊豫守、大岡越前守等ニ命ジテ之ヲ判セシメ、幕邑

ノ民ヲ召ス。周佐村庄屋福田久右衛門、安井村庄屋

ニ應ズ。六年三月四日、將軍吉宗親カラ吹上亭ニ臨

テ之ヲ聽ク。初メ幕邑瓜生原村ハ、和氣山ニ接シ、而

テ事ニ関セザルヲ以テ、其耳目スル所ヲ問ハント

欲シ、庄屋二人。目瀬藤四郎、ヲ召ス、是日、對審既ニ畢

リ、之ヲ二人ニ問フ。二人對テ曰、鄙村固ヨリ和氣山

ヲ以テ入會。方言、他村ニ至リ、共ニ柴草ヲト為セト

モ、村内ノ柴草率ネ以テ足レリト為ス。故ニ此訴ノ

如キモ、獨局外ニ在リ、且其入會村名ヲ明記セズト

三十一 村 柴草率

幕府乃子代官飯塚孫次郎但馬生野ニ命ジテ山中
 ヲ檢按セシム至是其疆域ヲ裁定シ共ニ此ニ蒞ラ
 シム是ヨリ先及ビ山川ノ境界ヲ争ヒ幕府
ニシテ藩主ノ中途ニシテ和解スル者或ハ事小
ル者ハ姑ク之ヲ略ス
 八年癸卯九月通航于加茂川原流通航書類
 大庄屋中西治久左衛門中庄屋山本彦三郎共ニ東北
 原村龜田甚兵衛同郡塔中等加茂諸村ノ貢米ヲ津
 山ニ陸送スルノ勞ヲ省カント欲シ加茂川三里餘
 勝北郡植村ヨリヲ浚鑿シ以テ船ヲ津山ニ達スル
 塔中村ニ至ルヲ請フ藩之ヲ許ルス至是始テ船路ヲ開ク享保十
 年乙巳大旱矢吹日記
 茂諸村幕府ニ隷ス幕府其資ヲ給セズ遂ニ船路ヲ失ス

九年甲辰九月大風洪水風水
 十年乙巳大旱矢吹日記
 早害屆書

五月二十八日ヨリ八月五日ニ至ルマデ雨ヲラス

淺五郎祀曩祖東照公于山北村愛宕山松平記録美作
 十一年丙午三月勝南郡民乞恤于幕府矢吹日記
 救物類書

去年雨ナク苗稼登ラズ而ノ勝南郡十七村下谷信
 松尾重藤鹽氣長内金屋八田岩見田最モ太甚シ村
 稻穂下山鳥淵青野王子城田村等民代官保木左太郎土居村
 ニ就キ救ヲ乞フ聽カズ周佐村川上七兵衛等乃チ幕府ニ哀訴セント欲シ
 左太郎ニ猜嫌セラレテ果サズ村民大ニ怨ミ矢吹
 正勝孫左衛門行川上孫三郎上間村ニ依テ幕府ニ

歎訴ス、二人左太郎ニ謂テ曰ク、君管民ノ窮饑ヲ救恤スル其任ナレバ、則チ必ズ幕府ニ建議セラルベシト雖ドモ、亦饑民ノ自ラ措ク能ハズシテ、幕府ニ哀請セント欲スルヲ許セヨト、左太郎竟ニ之ヲ諾ス、是月、二人乃チ江戸ニ詣リ恤ヲ乞フ、八月、復東上シ、遂ニ給恤ヲ得テ歸ル、

十一月十一日、淺五郎卒、長熙嗣、

松平系圖。松平記。藩翰譜續編。

淺五郎未ダ封土ニ就カズシテ卒ス、年歴二十一、

嗣ナシ、於是、松平知清主税頭、直矩ノ第三子、第

三子長熙又三、松平綱國ノ嫡孫安藤近倫造酒ノ二

人ヲ擇テ、後嗣ト為スヲ請フ、十八日、幕府長熙ニ命

シテ嗣ガシメ、封土ノ半ヲ削ル、幕例、嗣ナキハ祀ヲ以テ、特ニ之、十六年七月二十八日、長熙初テ將軍吉ヲ存スト云、老臣佐久間主計盛林、海老原宗ニ謁ス、孫助景章等從テ吉宗ニ謁ス、

十二月、真島郡騷擾、山中騷擾記。享保日録抄。

先是、藩十一月二十五日ヲ以テ、徵租ノ限ト為ス、是年、勘定奉行久保新平、俄ニ之ヲ十月十五日ニ改メ、其間麥ヲ種ルヲ禁ズ、領民憂憤、物情騷然タリ、藩乃チ新平ノ職祿ヲ褫ヒ、之ヲ禁錮ス、是月、真島郡仲間村牧分徳右衛門、小童谷村日向牧分、日向皆地名、半六、見尾村弥次郎等、減封ノ事ヲ聞キ、流言スラク、大庭、真島二郡ハ、業已ニ幕府ニ隸ス、往キニ納ムル所ノ貢租

八、頗ル額ニ過ク、今坐視シテ促ズンバ、則チ藩吏ノ
有トナラント、於是、二郡ノ民久世村ニ會聚シ、超租
ヲ督促シ、或ハ荒饑ヲ唱へ救恤ヲ乞フ、代官三木保
教甚門左交覆説諭シ、竟ニ千八百苞ノ米券ヲ與テ去
ラシム、徳右衛門等、猶其意ヲ逞セント欲シ、又曰、米
券ハ不日故紙ニ属セシ、速ニ穀ニ換ガル可ラズト、
二郡ノ民乃チ復蠢起シ、豪富ヲ恐喝シ、金穀物品ヲ
鹵掠ス、明年正月、藩保教、及ビ山田補秋丈ニ附スル
ニ、生殺ノ權ヲ以テシ、士卒數十人ヲ率テ之ヲ鎮定
セシム、七日、二人進テ新庄驛真島ニ至ル、兇徒五六
百人、銃槍ヲ携へ、黒田村ニ會シ、且サニ襲ハシトス

二人乃チ令シテ曰ク、聞ク徳右衛門等、兇器ヲ齎ラ
シ我ヲ襲ハントスト、若シ我ヲ襲ヒ我ニ托セバ、我
盡ク之ヲ誅センノミ、然レドモ良民ノ脅從スル者
ヲシテ、玉石共ニ燬カシムルハ、我が忍ビサル所ナ
リ、宜シク反正スベシト、於是、兇徒相傳へ、逃走スル
者多シ、徳右衛門等遂ニ襲フ能ハズ、十二日、又黨ヲ
募リ土居村郡ニ會ス、保教乃チ其黨五人ヲ驛外ニ
斬殺シ、夜半雪ヲ冒シ、士卒ヲ率テ土居村ヲ襲ヒ、
徳右衛門等數十人ヲ捕フ、明日、西茅部村太郎兵衛
等二十五人ヲ土居村ニ斬リ、二所三板路此ニ梟ス、魁
首彌次郎半六等皆村人ノ告ル所ト為リ縛ニ就ク、

二十五日、真加村善兵衛等八人ヲ湯元村ニ斬ル、閏正月二日、田原村茂七郎等七人ヲ久世驛ニ斬ル、於是兇徒大ニ怖レ、向キニ掠ル所ノ金穀物品ヲ還附ス、三月十二日、徳右衛門弥次郎半六等六人ヲ二官村西條郡滑川ノ上リニ梟ス、

十二年丁未五月、長瀬致封土半。地方引

長瀬東北條阿波物見山下、西々條津、齋原諸村、與西北條岩屋越畑、大野、大庭、湯本、久世、河内諸村、真島茅部藤森、三家、土居、五郡ノ内五萬石ヲ致ス、幕府乃柴原神場、竹原諸村ノ代官内山七兵衛倉敷村ニ命シテ、之ヲ管セシム、八月、幕府置官癖子大庭郡久世村。代官所設置調書、地方書類

幕府代官窪島作右衛門ニ命ジ、内山七兵衛ニ代テ、

久世村ニ移リ治セシム。元文二年三月、平岡彦兵衛、

享元年八月、永田小左衛門之代リテ治ス、延村乃リ、徒テ之ニ代ル、寶曆五年正月、石黒小右衛門、鹿田郎乃リ、之ニ代ル、十二月、藤本甚助、翁敷村ヨリ、來テ之ニ代ル、十一月、九月、竹垣注藏、又之ニ代ル、明和五年七月、鈴木小右衛門、以之ニ代ル、六年、春、稻垣藤右衛門、又之ニ代ル、七年、六月、乃井野藩主、森俊春、之ヲ管ス、天明四年、代官守屋弥惣右衛門赴任シ、此ニ治ス七年、早川八郎左衛門、文化中ニ至テ、遂ニ廢ス、田又兵衛又之ニ代ル、文化中ニ至テ、遂ニ廢ス、

十二月十三日、幕府裁大谷山論。山論、書類

八年六月二十七日、幕邑六村代官岩出彦兵衛所管、

所管、官尾、領家、久米川、南、津山封内二村、神戶院ノ民、上久米川、南中、神代村、柴草ヲ大谷山、北條郡、坪井下村、二、薊ル、坪井下村、

民之ヲ拒ム、明日又八村ノ民三百餘人、幻住寺山ニ
 會シ、異裝シ、捧ヲ提ゲ、大谷山ニ入テ且廿二斯ント
 ス、坪井下村ノ民之ヲ拒ミ、衆寡敵セズ、數人劊ヲ被
 ル、於是坪井下村ノ民領主内藤氏ノ代官須永則茂
 源兵衛、同ニ就キ、之ヲ止ムルヲ請フ、則茂遂ニ止ム
 村ニ居ル、其後八村ノ民益兇暴、又四村南方中山、手
公文北、黑公
 能ハズ、其後八村ノ民益兇暴、又四村南方中山、手
公文北、黑公
 文、久米川、民ヲ誘ヒ、屢來リ、前ル、十一年五月、坪井
 南足山村、民ヲ誘ヒ、屢來リ、前ル、十一年五月、坪井
 下村庄屋庄左衛門及ビ弥惣兵衛等、其暴舉黙止ス
 ベカラザルヲ以テ、江戸ニ詣リ、之ヲ訟フ、幕府乃チ
 十二村ノ民ヲ召ス、中北下村庄屋彦十郎、神代村庄
屋惣助、神戶村庄屋彦兵衛等六
 人、召ニ應ジ、是ヨリ對審數回、坪井下村ノ民辭アリ、
 テ東上ス、

十二年ノ民卒ニ服ス、幕府乃チ十二村ノ民大谷山
 ニ入ルヲ禁ジ、贖金若干ヲ出サシム、

是月、禁神祀佛會作新様。慶弘紀開。
松平記録。

幕令ニ從ヒ之ヲ禁ズ、

十五年。庚戌。十月二十五日、藩造措幣。紙幣發行觸書、玉
置家記、中村家記。

初元、祿十三年十月、藩紙幣五種、一文目、五分、四分、
三分、二分、ヲ製

シ、封内ニ流布ス、寶永四年十月、幕府ノ禁ニ屬テ止
 ム、至是、其禁ヲ解カルヲ以テ又之ヲ製シ、大年寄蔵

合孫左衛門、二階所、
人、齋藤孫右衛門、元魚町、
人、二命ジテ

交換ノ事ヲ掌ラシム、後寶曆十年、山本三右衛門、茂
渡市右衛門、川口藤十郎ニ命

ジテ、專ラ交換ノ事ヲ掌ラ
シメ、名ケテ元ト白ス、

是歲土岐賴稔領英田郡等内一萬四千石。松平記類。地方書類。

損稔保丹後守、駿河田中藩主、寬大坂城代二任、英田

岩邊、瀬戸、餘原、川北、勝南、豐國、原、北、勝北、真加部、河三

郡ノ内六十餘村ヲ領ス、解舎ヲ海内村ニ置キ、大庄

屋一人同村田ヲ撰用ス、後チ世話役ナル者ヲ置キ、

二至元、北條

十六年。辛六月。雨雹。松平記類。電災屆書。

東北條、西北條、又米南條ノ三郡、害多シ。

八月。大風洪水。松平記類。風水屆書。

十八年。癸三月。長瀬賑飢民。松平記類。

去年、山陰、山陽二道凶歉ナリ、長瀬封内ノ饑民ニ鹽

及ビ麥ヲ賑ハス。

是歲。幕府置官廨于吉野郡下町村。代官所設置調。書。地方書類。

幕府古町村ノ官廨ヲ廢シ、更ニ下町村ニ置キ、代官

小林孫四郎ヲシテ治セシム。明年、曾根五兵衛、孫四郎ニ代リテ治ム、寛保

元年、花井庄九郎之ニ代リ、幾ナクシテ死ス、平岡彦

兵衛乃チ之ヲ兼又、二年、川田玄蕃之ニ代ル、延享二

年十月、松平宗恭ノ郡吏又之ニ代ル、四

年、土屋篤直ノ所領ニ屬シ、遂ニ廢ス。

十九年。甲。植甘薯。松平記類。地方書類。

甘薯ハ、本琉球ヨリ薩摩ニ傳フ、因テ薩摩薯ト稱ス、

是年、幕命ニ從ヒ、始テ之ヲ國中ニ植ユ、

二十年。乙卯。三月。長瀬賑貧民。地方書類。

河邊、井口、日上國分寺四村並勝南郡、牛病傳播シ、去年、ヨ

リ今年ニ至リ、斃ル、者一百四十八村民窮乏シ、復
牛ヲ買、能ハズ、於是長熙金穀ヲ賑貸シテ之ヲ購ハ
シム、

十月十三日。長熙卒。長孝嗣。松平系圖。

長熙享保十六年十二月、從四位下ニ叙シ、越後守ニ

任ス、至是江戸ニ卒ス、享年十六、法諡義子長孝庄次郎甫

一、テ立テ封ヲ糞ク、

是歲太田資晴領勝北郡内。東作誌。

資晴備中守上野大坂城代ニ任シ、攝津備中及ヒ勝

北郡真如部河ノ内ヲ領ス、資晴解舍ヲ備中此口部

五年三月卒ス、八月幕府之ヲ收メ、代官曾根五兵衛

治ス

櫻町天皇元文元年。丙辰。五月。洪水。松平記録。

四年。巳未。三月。勝北郡騷擾。勝北騷動記。

先是幕邑勝北郡北野村藤九郎與三右衛門潜ニ因

幡ニ赴キ、其騷擾ニ乘ジテ、財物ヲ鹵掠ス、後恒ニ車

ヲ起シ財ヲ奪ント欲ス、是月二日、遂ニ村人平吉及

ヒ近藤村半四郎、作右衛門ヲ誘ヒ、口ヲ飢餓ニ籍キ、

連リニ富農ニ強迫シ、遠近ヲ煽動ス、四日、三十五村

是宗宮内北野成松高岡久常澤ノ民率テ皆骨從ス、

時二代官曾根五兵衛下早村及ヒ備中倉備中ニ在

リ、屬吏中丸清助、大鳥多吉等カヲ竭シテ解諭シ、竟

卷之四 十六 村 賦 役 考

一鎮定スル能ハズ乃チ使ヲ馳セ兵ヲ津山藩ニ乞
フ藩物頭北郷門左衛門海老原多宮藤本伴右衛門
ヲシテ兵二百五十人ヲ率テ赴キ援ケシム五日門
左衛門等新野東上村ニ抵リ藤九郎等二千餘人林
傍ニ在リノ二蔽シテ抗拒スルヲ聞キ輒チ馳セ至ル
黨民大ニ喊ス門左衛門等乃チ其銳ヲ挫カント欲
シ小銃ヲ發ス黨民其丸無キヲ以テ屈セス於是巨
礮二門ヲ置キ連發シテ林ヲ射ル枝葉墜紛黨民奔
潰ス遂ニ之ヲ捕フ幕府乃チ稻垣淡路守大坂早二
命シテ之ヲ處セシム十月二十三日藤九郎與三右
衛門ヲ大坂ニ斬リ平吉等二十四人ヲ放以竹内村

兵衛廣岡村鈴木又左衛門菜内村井戸傳右衛門部
民ヲ論シテ之ニ黨セシメス幕府因テ三人ニ白銀
十枚ヲ賜ヒ之ヲ賞ス特ニ與兵衛ハ窮民ヲ
賑ハスヲ以テ氏ヲ稱シ刀ヲ佩ルヲ許ル

四月雨雹松平記錄
電害届書

香々美庄諸村西北及ビ下森原村西害多シ

八月大風洪水松平記錄
風水届書

是歲丹羽薰氏領勝南郡等内一萬石寬保武鑑
地方書類

薰氏和泉八氏次助ノ裔孫ナリ初メ越後高柳一萬

石ヲ食ム至是勝南黒土青木吉野後山二郡ノ内ヲ

領シ寨ヲ黒土村ニ築テ徙リ居ル

寬保元年辛酉六月東南條郡野村稻腐敗松平

二年壬戌四月禁瘞錢慶弘記聞
松平記錄

瘞錢八指二納ル者俗ニ所謂六道錢ナリ幕命二回
テ之ヲ禁ズ

是歲丹羽薰氏移封于播磨三草寬保

三年癸亥四月雨雹風水

閏四月禁燕民麗飾慶弘記聞

幕令ニ從ヒ銀簪鬘櫛ヲ用ユルヲ禁ズ

延享二年乙丑七月朔森長記管英田郡等村上家記

長記對馬守播磨藩主代官根岸左衛門倉敷村河田玄

蕃下早村所管英田土居竹吉野栗井中田勝南

原坂福力池勝北久賀柄久常村並西谷久米南條

尾京尾南畑福渡高久米北條中宮尾錦織南方六郡

内三萬四千六百五十石餘七村ヲ管ズ寶曆十三年
米南條郡ノ内三十村ヲ收ム後勝南郡羽仁行信
原下谷飯岡王子村等勝北郡新野上町川中島村等
東北條郡知和東黒木村等吉野郡茂津影石海内桑
野東町並町村等大庭郡久世村等ヲ加フ寛政六年
春又悉ク之ヲ収メ脇坂安董稻垣藤四郎ニ命ジテ管セシム

十月松平宗恭管吉野郡等地方

宗恭相摸守目幡代官河田玄蕃永田小左衛門村久世

沿ノ所管吉野村等勝北村等野田東北條知和西々

條奥津富西谷羽西北條寺和田大庭久世六郡ノ

内七萬三千石餘ヲ管ズ其臣竹田治太郎堀喜十郎

大口權十郎等來テ下町村ニ治ス延享四年吉野勝

半土屋氏ノ所領ト為ル因テ久世村ニ移リ治ス寶

石黒小右衛門等
ヲシテ管セシム

三年丙寅三月。巡見使至。松平日記

小幡又三郎伊奈兵庫等之が使タリ、

桃園天皇延享四年丁卯四月。幕府移農民于稻穗村。東作誌

記。村家

去年冬、稻穗村勝南庄屋等窮乏シ、租税ヲ納ムル

能ハス、竟ニ高四十餘石ノ地ヲ棄テ、逃奔ス、於是

代官藤井九左衛門倉敷村幕令ヲ奉シ、西村七郎右

衛門ノ族八郎右衛門同郡及ビ傳六十右衛門

共ニ同郡、塩ヲシテ移住セシメ、其地ヲ分テ給ス、

九月。大久保忠方領勝北郡等。江原村上調書

忠方大藏太輔相摸勝北高岡諸村廣久米南條福田押

諸村久米北條宮部通谷與山手油三郡ノ内二萬四千

三百四十九石五村ヲ領ス、麻舎ヲ西川與山二置キ、

大庄屋一人同村山寄テ撰用ス、後支麻澤村ニ置

ス、文化十年二月、幕府慈ク之ヲ收メ、代官重田又兵

衛ヲシテ管セシム、寶曆五年二月、大久保氏指鉤

ヲ造リ、西川銀札ト名ツク、西川大黒屋其大坂天王

寺屋其之ヲ掌ル、文政九年、濫出シテ交換スル狀ハ

遭民損害シ、

土屋篤直領吉野郡等。巡見使割費

篤直左門後陸土浦藩主、吉野古町下町、勝北近長福井、田

二郡ノ地一萬九千八十石餘五村ヲ領シ、麻舎ヲ下

町村ニ置ク、後天明二年、大庄屋二人近長村甲田猪

勘三ノ撰用ス、寛政二年、幕府吉野郡一萬石ヲ收ム、
年ニ至テ、豐岡縣ニ屬ス、

脇坂安興、領真島郡内。巡見使割費帳。妹尾家記。

安興、龍野藩主、磨真島郡富尾羽別五村、二千四百六

十石餘ヲ領ス、中村ニ治シ、部長二人、重左衛門、栗原

村、杉喜ヲ舉シ、明治五年ニ至リ、
左衛門、ヲ舉シ、北條縣ニ屬ス、

仙石政辰、領勝南郡内。巡見使割費帳。地方書類。

政辰、越前守、但馬勝南郡中原百々、周佐八村、三千

二百七十石餘ヲ領ス、大庄屋二人、妙見村、古田次郎

内、ヲ撰任ス、仙石氏ハ解舍ヲ置カズ、天保六年十二

萬八千石ヲ禰ハル、
勝南郡之ニ與カハル、

寶曆元年、未、七月、淡加茂川、達船于綾部村。道記。

五年、乙、八月二十四日、津山大風。玉置家記。

六年、丙、二月、長孝賑市民。松平家記。

九月十六日、大風雨。風水居書。

八年、戊、十月二十九日、幕府命長孝、拘本多忠英。矢吹日記。

家記。

忠英、長門守、祿八幕府ノ以老夕リ、金森氏美濃藩主。

事ニ坐シ、職祿ヲ褫ハル、十二月九日、忠英津山ニ至

ル、長孝之ヲ城中ニ幽ス、天明八年七月八日、幕府忠

由ニ祿若
干ヲ給ス、

十二月、製綿實油。殿書。

玉置源五兵衛 津山堺町ノ人、大始テ綿實油ヲ一方
村 久米南ニ窄ル、

是歲代官藤本甚助檢管地 明細帳

甚助 久世村、管内東北條郡五村 東黒木、小淵、青柳、

地ヲ丈量ス、後明和四年、森對馬守、亦勝北、郡中島、新

衛、亦同、郡植ノ地ヲ檢スル者ハ、成ク檢ス、是ヨリ

九年 巳、二月晦、津山火、 玉置家記

火二階町 高市屋六ニ起リ、堺町京町小性町四十五

戸ヲ延焼ス、

四月、藩革民政 玉置家記、植月家記

去年、長孝、佐々木九郎左衛門ノ理財ニ長スルヲ聞

キ、服部弥左衛門、上原彦市ト共ニ勘定奉行ト為シ、

而ノ郡代兼町奉行井上弥三兵衛、勘定奉行栗田辰

右衛門、平野丹下ヲ免ス、至是九郎左衛門等、廢政

釐革シ、大中庄屋ヲ廢シ、諸吟味役 市吏ノヲ置キ、更

ニ諸稅ヲ増課ス、

六月、藩置郷倉 郷倉建、築書

郷倉ヲ神戸村 西々郡、草加部村 東北條郡ニ置キ、其近村

貢米ヲ徵聚シ、津山ニ運輸スルノ勞ヲ省ク、

十一月二十六日、津山火 玉置家記、日笠家記

火安岡町 綿屋吉ニ起リ、茅町、新屋敷ヲ焼亡ス、

十一年 巳、三月、巡見使至 矢吹、日記

阿邊内記杉原七十郎等之が使タリ

八月十六日。藩置地方目附。地方書類。植月家記。

往キニ大中庄屋ヲ發シ、庄屋ヲシテ其事務ヲ執ラ

シム、物情恟然タリ、於是地方目付ナル者ヲ置キ、前

大庄屋ヲ以テ之ニ任ズ、後復之ヲ大庄屋ト稱ス、

十二年。壬午。閏四月二十九日。長孝卒。子康致嗣。松平家譜。

長孝ハ、出雲廣瀬藩主松平近朝ノ第三子ナリ、初メ

松平宣維出雲國主ニ子養セラル、享保二十年十二月長

熙ノ嗣ト為ル、元文三年十二月從四位下ニ叙シ、越

後守ニ任ズ、寛延二年十二月侍從ニ遷ル、至是江戸

ニ卒ス、享年三十八。法謚隆照。世子康致光九、甫立テ封テ

襲グ、

六月二十五日。大風。松平記録。大風屆書。

加茂諸村東北條郡害多シ、

十二月。康致復税法。復税法。輞書。

先是佐々木九郎左衛門等ノ改革スル所口一モ民

心ニ適スル者ナシ、至是税法ヲ舊ニ復ス、

後櫻町天皇寶曆十三年。癸未。六月。土井利里領久米南條

郡内一萬石餘。細問河原爭論書。坂手家記。久徳家記。

利里大炊頭、下総古河藩主、森對馬守ノ所管久米南條郡、内

三十村佐原、高尾、越尾、原田、子領、安永、五年十一月

ヲ舉テ大庄屋ト為ス、九年又其子雄右衛門ヲ舉テ

美作國 卷之四 三十一 村 賦 書 載

大庄屋ト為シ、父子同僚タラシム、天保六年七月、幕府佐良高尾寺十七村ヲ収メ、備中倉敷代官築山茂之ヲ領ス、明治五年ニ至テ、北條縣ニ屬ス、

明和元年、申六月二十一日、三浦明次封于勝山。三浦系見家記。

明次、志摩代官竹垣庄蔵ニ治ス、管内二萬三千石

真島郡一百七、ヲ領ス、九月、老臣九津見定羽衛門等、村、大庭郡一村、ヲ領ス、

來テ領邑ヲ收メ、寨ヲ勝山村、高田ニ築ク、七年八月十日、明次始テ封土ニ就ク、寛政九年十二月五日卒ス、

享年七十三、後矩次、志摩守、後茂理ノ子、安永元年九月、前次、志摩守、明次ノ子、安永九年五月、

前次、志摩守、明次ノ子、安永九年五月、

三年四月二日、誠次、志摩守、前次ノ子、天保

九年四月二日、誠次、志摩守、前次ノ子、天保

長子、天保二年、四、義次、備後守、誠次、弟三子、大朗次、月十九日、義次、備後守、誠次、弟三子、大朗次、志摩守、有馬日向守ノ子、弘化四年十二月、弘次、備後守、第二子、萬延元年、顯次、玄蕃頭、弘次ノ子、明治元年、月二十二日、嗣、顯次、五月六日、立テ封ヲ罷グ、九世相繼テ勝山ニ居ル、

三浦氏ハ、平義明、大ヨリ出ヅ、義明十五世ノ孫、正

次、志摩、寛永十六年、下野壬生ニ萬五千石ヲ領ス、

其孫明敬、志摩守、初元禄四年、日向縣ニ移ル、正徳

二年、又三河新屋ニ移ル、傳テ明次ニ至リ、延享四

年、同州西尾ニ轉ス、至是、又勝山ニ轉ズ、先是、徳川

氏命ジテ源姓ニ改メシム、

十二月、幕府賞稻垣隆秀。孝義録。稻垣孝狀記。

隆秀淺之丞ハ田殿村吉野ノ人芳隆小十郎第二子ナリ

字ハ子華、瀧下ト號ス、其先世森氏ニ仕テ、森氏國

除スルニ及テ、祖朝隆權兵衛退テ田殿村ニ居ル、隆秀

幼ニシテ孝順、學ヲ嗜テ倦マズ、年甫十一、出テ京師

兒玉氏ニ依ル、後大坂中井誠之ノ門ニ入り、葉大ニ

進ム、播磨小笠原氏安志藩主ニ聘セラレ、顧問ト為ル、寶

曆四年、父芳隆ヲ播磨ニ迎ヘ養ントス、芳隆曰ク、迎

養ノ厚キハ、歸艱ノ薄キニ若カスト、隆秀即チ決然

禄ヲ辞シテ歸ル、是ヨリ躬ヲ勤苦ヲ執リ、心ヲ盡シ

テ養視ス、旦夕歡ヲ養ケ、未ダ嘗テ必モ忤コトアラ

ズ、遠近皆其孝ヲ稱ス、管主森俊春對馬守長之ヲ聞

キ、遂ニ幕府ニ申稟ス、至是幕府白銀二百兩ヲ賜ヒ、

俊春モ亦米十石ヲ餽テ之ヲ賞ス、芳隆時二年八十

三、隆秀四十三、誠之ノ二子積善、積徳、及ビ中村有則、

三宅正誼等、詩文ヲ贈テ之ヲ祝ス、積善又為ニ孝狀

ヲ作テ世ニ傳ス、

五年戊子十二月、康致定給養法松平記。

先是、數、鰥寡孤獨ヲ賑ハス、而テ定法ナシ、於是給養

ノ額ヲ定メ、老者ハ終身、幼者ハ成童ニ至ルマデ之

ヲ救恤ス、後以テ恒例ト為ス、後文政元年七月、康致

上二、年米二苞ヲ賜ヒ、九十五歳以

六年巳二月、久米南條郡騷擾吹日記、

森俊春ノ所管京尾南畑諸村ノ民其近村ヲ煽動シ、
富豪ニ強迫シテ財産ヲ掠奪ス、是月十七日、俊春士
卒一百五十人ヲ遣シ、之ヲ鎮壓ス、倡首次郎右衛門
京尾六次郎南畑村ノ二人ヲ斬ル、

六月八日洪水水害、
屆書。

七年庚寅、久世廣明領勝南郡等三萬三千石。矢吹日記、
地方書類。

廣明出雲守、下總大坂城代ニ任ジ、森對馬守内藤十

右衛門等ノ所管勝南勝間田、中山、宮山、安井、西北條

寺和田、年薪森原、貞永寺、東北條東黒木久米

信村等、西々條塚谷、齋原村等、東北條東黒木久米

北條等數郡ノ内ヲ領ス、老臣富田善右衛門代官八
木傳次郎等來テ勝間田村ニ治ス、安永三年、廣明閣

乃ヲ領ス、數郡ノ地
乃子幕邑ト為ル、

後桃園天皇明和八年辛卯、大旱。旱害、
屆書。

五月ヨリ八月十日ニ至ルマデ雨ヲラズ、

安永元年壬辰、八月、康致釐革藩政。松平記録、
墮淚口碑。

康致、天資英明、豁度、必ッシテ識度アリ、學ヲ好テ倦

マズ、嘗テ江戸ニ在リ、細川重賢肥後國主、上杉治憲出羽

藩主ト友トシ善シ、遂ニ其治蹟ヲ景ヒ、大ニ燕政ヲ革

メント欲シ、儒士大村庄助肥後人、山下官彌播磨人、飯室

武中ヲ徵用ス、至是之ト得失利害ヲ討論シ、中外ノ

制度ヲ釐革シ、又鉛筭ヲ設ケテ、士民ノ讜言ヲ求ム、

是ヨリ言路大ニ開ケ、風俗一變ス、康致人ヲ用ユル、

河井十寸茂ヲ文學ニ信澤與左衛門ヲ劍術ニ坂
井善左衛門ヲ槍術ニ佐藤八郎左衛門ヲ醫術ニ且
三河ノ人正木兵馬ヲ軍學ニ出雲ノ人尼子大造ヲ
馬術ニ用ヒ或ハ岸權六ヲ卒ヨリ權ヲ郡代ト為ス
等ノ救擧
違アラズ

十月幕府賞春名猶右衛門春名救取調

猶右衛門ハ倉敷村英田ノ人ナリ性仁慈博愛常ニ
窮民ヲ賑ハス會禍難ニ遇フ者アレバ遠近ヲ問ハ
ズ金穀ヲ寄贈ス郷邑舉テ善人ト稱ス管主森俊春
乃チ村吏ニ命ジテ其救恤セシ所ヲ查セシム寶曆
五年ヨリ茲ニ至テ米一千七百苞金十兩銀七貫七
百目ナリ俊春竟ニ之ヲ幕府ニ申稟ス幕府乃チ氏
ヲ稱シ刀ヲ佩ルヲ許シ物ヲ賜テ之ヲ賞ス其子猶

右衛門初儀三郎孫猶右衛門初嘉三郎亦皆窮ヲ賑スヲ以テ

賞セラレ其三世救恤スル所口文政二年八月二迄

テ金十一兩銀三十四貫二百目錢四十八貫文米四

千四百五十八苞ナリト云是ヨリ先俊窮民ヲ賑ハ

ル者高田村金田市郎右衛門久世村金田六郎右衛
門下二箇山手村治部宇助河原村石川三郎平提並
村永幡和平方信村矢吹田作山上村石戸玉之助
馬形村豐福三平桑下村水島増藏水島敏藏等アレ
トモ皆春名氏ノ比ニ
非ラズ因テ之ヲ畧ス

三年甲午夏三浦矩次壽過安兵衛母過家譜

安兵衛ハ鹿田村真島ノ人ナリ是年其母宗族新次郎秀親

女ノ齡一百歳ニ滿ルヲ以テ藩主矩次俸米一口ヲ

給シテ之ヲ壽ス十二月遂ニ死ス

卷之六 村族譜

七年戊戌十月禁擻民俗松平。

近時居民乞者農商ニ遜セズ或ハ旅亭ニ雜宿スルヲ以テ之ヲ禁ズ。

八年己亥土井利和賞孝民菊右衛門及妻子美作。

菊右衛門ハ原田東村久米南ノ人ナリ妻ト共ニ父

母ニ事テ孝ヲ竭ス二男一女アリ亦皆孝順ナリ世

傳テ美談ト為ス領主土井利和大次乃チ物ヲ與テ

之ヲ賞ス菊右衛門時二年五十妻讚三十八長子熊

孝格天皇。天明二年壬寅三月十一日幕府決英田勝南郡

界。境論裁

安永八年三海田村森俊春所入田村仙石久道所

郡界ヲ爭ヒ竟ニ幕府ニ訟フ幕府乃チ代官守屋彌

惣右衛門ニ命ジテ之ヲ檢セシム至是裁定ス

三年癸卯五月二十六日津山市人騷擾玉置家記。

是年米價騰貴ス後藤屋孫市鳥屋富藏以為ラク伏

見屋茂七神田屋利兵衛等米穀ヲ藏シ價ヲ待ツニ

由ルト是夜衆ヲ聚メテ茂七等ノ四家ヲ破壊ス藩

乃チ孫市等ヲ捕ヘ亦茂七等ヲ獄ニ繫ズ

八月九日洪水矢吹。

十二月晦大雨雪日笠。

是日津山市街雪ノルヲト一尺九寸明年正月三日

ニ至リテ猶ホ止マズ積テ二尺五寸ニ及ブト云フ

五年^{己未}二月。代官守屋彌惣右衛門。令部民為凶荒之備。
方書類。地

彌惣右衛門^{久世村}勝南^{金原、腰所、長内、勝北、田村等}

東北條^{宇野、戸賀、知、西北條、寺和、田、真經、西々條、間、塚}

谷馬場^{貞永寺、久米北條、錦織、上、打穴、大庭、内、中、島、村}

上森原村等。七郡、内五萬三千三百石餘ヲ管ス。是月部内ニ

令シテ、草根木實、糶糶ニ代フベキ者ヲ擇テ、山林

及ビ荒地ニ植ヘ、凶歉ニ備ヘシム。

六年^{丙午}八月二十九日。洪水。水害。

七年^{丁未}十一月。堀田正順領吉野郡等四萬八千石。矢吹

家神記。

正順^{相模守、後大藏大}大坂城代ニ任ジ、森對馬守、早

川八郎左衛門守屋彌惣右衛門ノ所轄吉野^{海内、桑}

西町^{東町、勝南、西吉田、行信、勝北、新野、東勝、加茂、東北}

條^{宇野、西々條、永寺村等、大庭村等、六郡ノ内ヲ領ス。}

其臣荒野佐兵衛、西山傳六等來テ西吉田村ニ治シ、

大庄屋一人^{同村、神寄ヲ撰用ス、寛政十一年七月、幕}

務大輔及ビ早川八郎左衛門、

池田仙九郎等ヲノ管セシム。

八年^{戊申}。英田郡倉敷村火。春名教助

去年、茅町二十五戸焼凶ス。是年、又西ガ濱、森ガ瀬、下

本町九十餘戸ヲ延焼ス。

寛政元年^{己酉}二月。巡見使至。矢吹

美作 卷之六 三十一 村 矢吹

石尾七兵衛、花房仙五郎等之ガ使タリ。

八月。吉野郡尾根木溝成。高畑家記。

先是尾崎川西兩村並吉野郡ノ民、後山川ニ堰ヲ築キ、以

テ水ヲ引キ田ニ溉グ、然ルニ堰稍下流ニ在ルヲ以

テ大水ゴトニ崩潰シ、村民勞役ニ堪ヘズ、川西村ノ

人高畑道貫宗九郎竹内久為治相議シテ其堰ヲ上流

ニ移シ、且暗溝長三丈、十ヲ鑿テ水ヲ通ズ、去年十月工

ヲ興シ、是ニ至テ竣ルヲ告グ、後絶テ崩潰ノ患ナシ、

同郡山手村興三右衛門、村内觀音弗ヲ鑿テ水ヲ引

ク者、元禄以前ニ保ル、津山藩重臣佐久間上総、久米

南條郡横山村寺岡考太郎識シテ同村山ノ麓ノ共

ヲ鑿テ水ヲ引出村ニ通ズル者、寛保先後ニ保ル、共

ニ年月ヲ詳ニセズ、姑ク附録シテ俾功ヲ傳フト云爾。

十月。康致禁虛無僧入于封内。松平記録。

近時、虛無僧施物ヲ貪禁シ、人民ヲ妨害ス、康致乃チ

其本寺京師明暗寺ニ諭シテ、封内ニ入ルヲ禁ズ、後

岐氏モ亦之ヲ禁ズ、

二年。庚戌英田郡倉敷村大火。春名救助取調書。

上茅町、上水町、上町、一百餘戸焼亡ス、

三年。辛亥十二月。康致賞孝女陶登美。孝義錄。美作孝民記。

登美ハ八出村久米郡、南中庄屋陶政右衛門ノ女ナリ、

生テ九歳、母ノ疾ニ届フ時ニ政右衛門村務繁劇、顧

視スルニ違ナシ、登美晝夜侍養シ、餘カアレバ則チ

紡績シ、以テ家計ヲ助ク、於是康致厚ク之ヲ賞ス、

四年。壬子。七月二十六日。大風。矢吹日記。

堀田氏領内ノ民舎多ク倒レ、廨舎モ亦倒ル、

五年。癸丑。正月。定捕盜之約。松平記録。

板倉勝駿備中松藩主ノ封内、強盜頗ル多シ、勝駿乃チ三

備、藝作、因伯ノ諸藩ニ謀リ、又幕府ニ稟議シテ、幕藩

ハ別ナク、官民戮カシ、之ヲ逮捕セシコトヲ約ス、

三月。康致追賞玉置惠吉。東作誌。玉置家記。

惠吉ハ、林田中之所ノ人、性謹厚、慈惠喜テ、窮民ヲ恤

ム、終ニ臨ミ、白銀千枚ヲ男守左衛門ニ附シ、且囑シ

テ曰ク、津山市街、書籍ニ乏シ、此レ市人ノ學ヲ知ラ

ザル所以ナリ、吾嘗テ之ヲ購求シ、廣ク其講讀ヲ資

ケント欲シ、遂ニ果サズ、汝チ之ヲ藩主ニ献ジ、以テ

購書ノ資ニ供セヨト、宇左衛門乃具申ス、藩主康致

之ヲ嘉納シ、宇左衛門及ビ其弟義七郎、清右衛門ニ

各俸米三口ヲ賜フ、而テ特ニ宇左衛門ニ雙刀ヲ佩

ルヲ許シ、以テ惠吉ヲ追賞ス、後儒臣稻垣武十郎茂

性町ニ創設シ、市人ヲ教育ス、此ヨリ後、市人學ニ向フ者多シト云フ、

康哉。設育兒法。松平記録。

康哉。康致改名。育兒法ヲ設ケ、墮胎ヲ嚴禁シ、棄兒ヲ養育

ス、育兒法ハ、銀四十貫目ヲ以テ、一年ノ定額ト為シ、

藩主其三分ノ二ヲ出シ、其餘ヲ有志ノ士民ニ募

ル、貧民ノ兒ヲ育スル能ハザルモノハ、米三苞ヲ給

シ、以テ鬻亂ニ至ル、其赤貧ノ者ハ、成童ニ至ルマテ

是歲勝南郡湯鄉村大火。春名救助取調書。

六年。甲寅。正月。下谷村楠松生根。東作誌。福田家記。

是月二日、下谷村、勝南郡梶兵衛、歙初式ヲ行ヒ、松枝ヲ

折テ地ニ插ス、遂ニ根ヲ生ジテ繁茂ス、因テ歙初松

ト稱ス、出雲上官、其他多ク和歌ヲ贈テ之ヲ祝ス、今

シテ雙枝アリ、一ノ枝ト曰フ、餘枝重疊皆水

春。脇坂安董、管英田郡等。夫吹日記。地方書類。

安董。中務太輔、攝津主、森俊詔、河内守、俊ノ所轄、英田、竹土、居

倉敷、勝南、岩見田、飯岡、藤田、久米、南條、神目、福渡、久米、

北條、錦織、桑四郡ノ内ヲ管ス、後又勝南、勝北、吉郎、三

三年、及ビ十五年、吉野郡諸村ヲ致ス、此

八月十九日。康哉卒。子康入嗣。松平系圖。松平家譜。陸渕口碑。

康哉、明和三年十二月、從四位下二叙シ、越後守ニ任

ズ、安永六年十二月、侍從ニ遷ル、至是江戸ニ卒ス、享

年四十有三。法謚。世子康入。仙十代、甫立テ封ヲ襲バ

康哉、嘗テ藩臣ノ奢倭ヲ視テ、之ヲ禁ゼント欲シ、躬

自ラ、儉素ヲ極ム、是ヨリ奢倭ノ風遂ニ止ム、冬夜宴

飲ス、酒酣ニ耳熱シ、戚然容ヲ易シ、侍臣恠ミ問フ、曰

七年。乙卯。八月二十九日。洪水。水害。屆書。

津山市街及ビ倉敷村水ニ浸サル、

十年。戊午。六月。幕邑民請哀于幕府。毅代改。正願書。

先是幕制、徵租三分ノ一ヲ以テ金納ト為シ、而ソ津

山市街ノ米價十月後半ノ均價ヲニ據ラシム、去年
 八月幕府更ニ令シテ津山藩雜賣ノ價ニ據ラシム、
 幕邑ノ民大ニ憂ヒ、龍野久世生野ノ官廨ニ就テ歎
 訴シ、聽サレズ、於是岡伊八郎池ノ所管勝南ノ人、脇坂氏
 久米北條三郡ノ内七十七村、竹内弥兵衛廣戸村ノ人、指垣藤四郎
 西々條西北條五福島甚三郎目木村ノ人、早川八郎
 郡ノ内五十四村、國廣利右衛門中山村ノ人、野村權九郎
 大庭二郡ノ内六十二村、國廣利右衛門所管吉野郡ノ内三十
 村、ノ四人幕邑二百二十八村ノ民二代テ江戸ニ抵
 リ、柳生主膳正ニ由テ舊制ニ復サシコトヲ請フ、幕
 府遂ニ之ヲ許ル、
 十一年。起。三月。代官早川八郎左衛門。頒教則于部内。久世

條教地
 方書類。

八郎左衛門久世村、八東北條西北條西々條大庭四
 郡ノ内及ヒ備中ノ地若干ヲ管ス、刑政清明、部民淳
 化ス、嘗テ典學館ヲ久世ニ、敬業館ヲ笠岡備中ニ設ケ、
 部内ノ子弟ヲ教育ス、至是、自ラ訓誡ヲ著シテ、部内
 二頒テ、名テ久世條教ト曰フ、初八郎左衛門久米北
天明八年、森氏
ノ所轄ト為ル
 十月二日、幕府裁下原古川村等境界、境論裁
 判書。
 先是幕邑下原、薪森原兩村、西々條郡、津山封内真加部宗
 枝、古川、吉原四村、並同ト疆界ヲ爭ヒ、竟ニ幕府ニ訟
 フ、幕府乃チ代官野村權九郎但馬生野ニ命ジ、來テ

美作國史 卷之四 三十四 村談 續

之ヲ檢セシム、至是津山川ノ中央ヲ以テ境ト為ス。

十二年。庚申。十月二十六日。幕府賞森本貞治郎。美作孝民記。

貞治郎、赤色宇野村。東北條郡ノ人ナリ、資性仁慈好テ

窮民ヲ賑ハス、又父母ニ孝事スルヲ以テ世ニ著ハ

ル、先領主堀田正順曾テ之ヲ賞ス、至是早川八郎左

衛門具申シテ、氏ヲ稱シ刀ヲ佩ルヲ許ルシ、以テ之

ヲ旌ハス。

享和元年。辛酉。四月二十三日。雨雹。電審扁書。村上家記。

久米南條。城、山北、一方、古村等、西々條院二宮、

神戶等數郡、麥菜收穫ナシ。

文化元年。甲子。四月。康又置勸農所。松平記録。

康又勸農所ヲ城南新坐ニ設ケ、田園若干ヲ附シ、封

内ノ惰民ヲ驅テ、此ニ役セシメ、兼テ教諭ヲ加フ、蓋

シ郡吏佐藤嘉之御左衛門、建議ニ由ルナリ、後天保末

松、建議シテ督業場ヲ其旁ニ置キ、市民ノ怠惰ナル

者ニ命ジテ業ヲ營マシム、其能ク志ヲ改メ、役ニ堪

ル者ハ、資金ヲ給シテ之ヲ遣歸ス、

二年。乙丑。七月十三日。康又卒。克孝嗣。松平系圖。鹽淡口碑。

康又寛政十一年十二月、從四位下ニ叙シ、越後守ニ

任ズ、至是江戸ニ卒ス、享年厯ニ二十、法謚、弟克孝、

郎、年甫ノ嗣、資性深沈、是非ヲ言ハズ、待臣以テ廢

愚ト為ス、十七歲、初テ封土ニ就キ、政ヲ執ル、事廢

屬ス、卒スルニ及ビ、惜惋止マズ、後ノ

三年。丙寅。大旱。旱害。屆書。

五月五日ヨリ七月七日ニ至ルマデ、雨フラズ、

四年。丁卯。松平乘保領勝南郡内。地方。書類。

乘保。勝南郡。書副。西吉田、ノ内ヲ領ス、其

臣大野段右衛門佐藤勘平等來テ勝間田村ニ治ス、

文化七年、乘保西九老中ニ任ズ、幕府乃チ之ヲ收メ、代官恩田新八郎ニ命ジテ管セシム、

五年。戊辰。六月二十九日。加茂川洪水。水害。屆書。

是日、大風雨、加茂川暴ニ漲リ、沿岸大ニ崩ル、

六年。己巳。正月十九日。津山城災。松平記録。村上家記。

是夜、火内城ニ起リ、翌日刻ニ及テ熄ユ、鼓卒中谷増

リ、火將ニ及ントスルモ下ラズ、老臣永見駿河、人ヲ馳セテ之ヲ下ラシム、増助曰ク、吾ハ中奥目附ノ部

下ナリ、故ニ國老ノ命ト雖ドモ下ル可ラズト、駿河即チ中奥目付某ニ令ス、某命ヲ傳フ、増助乃チ徐ニ時ヲ報ジテ後、樓ヲ下ルト云、

七年。庚午。四月二十三日。雷鳴雨雹。雹害。屆書。

東南條。村等、野東北條。綾部村等、勝南村等、諸郡害多

シ、

九年。壬申。六月。康孝修院庄舊跡。松平記録。高徳肖像記。

康孝。克孝ノ院庄舊跡ノ樹木枯朽スルヲ以テ、松櫻

數株ヲ栽ユ、又其臣廣瀬清風。雲太夫、臺山ト號ス、ニ

命ジテ、兒島氏ノ古像ヲ描寫シ、小島廣厚ニ記ヲ撰

ビ、太田貞幹。鳥山トニ之ヲ書セシメ、以テ世ニ刊布

ス、是時、兒島氏ノ像、一宮村觀音寺ニ在リ、記中四百

ナリト云フ、明治二年ニ至リ、院庄作樂神社ニ遷祀ス、

九月十七日、康孝管西々條郡等地。松平記録。

康孝代官山田常右衛門、恩田新八郎ノ所管、西々條

下原、新森原、黒木、大庭河内、目木、久世、湯本村等、二郡、及び備中阿

賀、川上二郡、四萬七千石餘ヲ管ス、天保十年ニ至リ、備中二郡ハ、倉敷

縣ニ屬ス、

十一月十九日、勝北郡楮村大火。東作誌。

十年、癸酉、康孝令封内蓄穀。松平記録。

當是時、封内殷富、家給リ人足ル、康孝、郡代三浦十郎

左衛門ニ命ジテ、封内ニ諭告シ、禾穀ヲ蓄積シ凶荒

ニ備ヘシム、領民乃チ八千九百七十石ヲ積ム、初メ

藩粟所謂、若干ヲ城中ニ蓄フ、至是、益之カ備ヲ為

ス、

十二年、乙亥、春、松平信行領勝北郡等地。山崎家記、地方書類。

信行山城守、出羽上ノ山藩主、實ハ津山藩主、松平康哉ノ第五子ナリ、重田又兵衛ノ

所管、勝北澤村、久米南條押淵、久米北條上打、大井、和

東村三郡ノ内一萬二千五百六十七石餘ヲ領ス、其

臣中山四郎右衛門、上打穴里村ニ來リ治シ、大庄屋

一人同村山等ヲ揆用ス、後文政元年、幕府之ヲ收メ、

是歲、美作孝民記刻成。美作孝民記。

甲田行喜平助、勝北郡近長村ノ人、醫孝義録寛政中、幕府ノ

所編輯スルノ疎略ナルヲ憾ミ、見聞ニ隨テ詳記シ、且

近時節孝ノ賞ヲ被ル者ヲ集録シ、以テ之ヲ補ヒ、十卷ト為シ、美作孝民記ト名ヅク、幾ナクシテ死ス、領主土屋彦直相模守行喜ノ子良歳ニ金若干ヲ與ヘ梓ニ上セシム、小竹篠寄弼之ガ叙ヲ作り世ニ行ハル、十三年丙子八月、正木輝雄、建佐良山碑于嵯峨山佐良山碑文作

陽誌東作誌

佐良山ハ、佐良莊久米南條郡、○佐良庄、初メ大邑ト置、山岳ノ泛稱ナリ、而テ嵯峨山中島ハ津山川ニ臨ミ、風景稍佳ナルヲ以テ、或ハ古歌詠ズル所ノ佐良山ト為ス、輝雄兵馬因テ同志者ニ謀リ、碑ヲ其山頂ニ建テ、以テ之ヲ表ス、按ニ、今佐良村ノ入、村内ノ嵯峨山ト為シ、中島村ノ

人、亦其差哉山ヲ以テ、佐良山ト為ス、而ソ皆是ニアラズ、蓋シ其泛稱ナルヲ知ラザルヲ以テ、○輝雄作陽誌ヲ追補セシト欲シ、文化十年、東六郡ヲ歴遊シ、見聞ニ隨テ風土ヲ詳記ス、十二年ニ至テ、楯ヲ脱ス、後名テ東作誌、或ハ追補作陽誌ト曰フ、

閏八月六日、幕府壽村瀬九郎右衛門東作

九郎右衛門ハ、下谷村勝南郡ノ人、梶兵衛ノ兄ナリ、幕府其齡一百歳ニ滿ルヲ以テ、米十苞ヲ賜ヒ、管主脇坂安董モ亦五苞ヲ贈テ之ヲ壽ス、明年十二月、病テ死ス、

冬、康孝設救助法松平記録

火災ニ遭フ者ノ為ニ、家財農具等ヲ給スルノ法ヲ定ム、俗ニ之ヲ火事遭手當ト稱ス、

仁孝天皇。文化十四年。丁丑十月七日。康孝領勝南郡等内

五萬石。松平記錄。地方書類。

康孝勝南勝南郡。坂安董管内。池个原。畑屋。東吉田。中山。青
兵衛管内。則平。下香山。黑土。勝間田。勝北。安董所管河
黑坂。福力。金井。西吉田。新田。村寺。勝北。面。描。上。野。田
村。東北條。彦兵衛。所管。小淵。彌野。谷。青柳。西々條。康孝
下原。薪森。原。村。寺。彦兵衛。所管。山城。大楠。富仲間。高山。
土生。上。森。原。馬場。塚。谷。八。久。回。下。原。河。本。貞。永。寺。村。寺。
久米北條。安董管内。錦織。村。大。原。四。郎。右。大。庭。内。河。内。
目本。村。寺。六。郡。内。五。萬。石。ヲ。領。ス。明。年。三。月。郡。代。三
浦。十。郎。左。衛。門。預。所。奉。行。大。村。成。夫。等。之。ヲ。收。ム。右。衛。門。八。備。中。倉。敷。二。居。ル。彦。兵。衛。八。丹。後。久。美。濱。二。居。ル。先。是。彦。兵。衛。恩。田。新。八。郎。二。代。リ。未。ダ。之。ヲ。收。メ。ズ。シ。テ。松。平。氏。ノ。所。領。ト。為。ル。

文政二年。巳卯。八月。幕府令均物價。依價。觸書。

是年。諸國米價低下シテ。諸物價昂貴ス。幕府令シテ
之ヲ平均セシム。本州ノ諸物價。乃チ五分ノ一ヲ減
殺ス。

五年。壬午。四月。大風雨。地方。書類。

六年。癸未。三月。三浦毘次建碑于西河内村。碑文。井。手家記。

先是。安永。七。年。夏。西河内村真島郡ノ民。陂池ヲ開鑿セシト

シ。古墳ノ堆立ヲ成ス者ヲ掘リ。陶器金銀環及ヒ巨

劍ヲ出ス。劍長三尺七寸。廣一寸八分。莖六寸餘。村民

以テ藥師寺九右衛門ノ墓ト為ス。藩主三浦矩次之

ヲ奇トシ。文ヲ撰ビ。碑ヲ立ント欲シ。果サスシテ卒

不、至是毘次其志ヲ繼ギ為ヲ建ツ、九右衛門ハ永祿中ノ人、毛利氏ニ仕ヘ、此村ニ居ル、即チ村人、築師、寺井、手諸氏ノ祖ナリ、按ニ葬事ニ金銀環及ビ陶器ヲ用ユル者ハ、鎌倉建府以前ニ係リ、而テ其後ノ事ニ非ラズ、三浦氏取此ニ見ルアリ、碑文中、九右衛門ノ墓ニ非ラズト

是歲、堀坂村暗溝成。本郷家記。

堀坂村勝北郡ハ加茂川ノ上リニ在リ、而ノ地高シテ

水低ク、灌溉ニ便ナラス、去年二月、村人山本吉次郎、

曾根與右衛門、左子藤兵衛、曾根源、吉杉、田健次郎、本

郷甚蔵等、代官龜田清助土屋氏臣ニ請ヒ、加茂川ノ水

ヲ引キ之ニ漑ントシ、村内釜ガ口ヲ開鑿ス、至是暗

溝三十三間溝高九尺、廣六尺餘、功ヲ竣ル、

八年乙酉十二月、金井植月諸村民騷擾。松平記、矢吹日記。

幕邑植月北村勝北郡、津山封内金井村勝南郡等ノ民騷

擾シ、近邑ヲ煽動ス、津山龍野兩藩兵ヲ出シテ之ヲ

鎮壓ス、

十年丁亥十二月二十一日、幕府裁大庭真島郡界。境論裁決書。

文政紀元、津山封内西原村大庭郡、勝山領邑、垂水村真島郡、

郡ト郡界ヲ争ヒ訟ヲ為ス、幕府乃チ代官荒井平兵

衛ニ命ジテ、實境ヲ檢按セシム、至是高田川ノ西岸

ヲ劃シテ郡界ト為ス、

十一年戊子六月、大風雨。地方書類。

十二年己丑七月、大風雨。地方書類。

天保二年。十一月二十二日。齊孝致仕。齊民嗣。松平系圖。松平

記。錄。

齊孝康孝ノ改稱。文化二年十二月、從四位下ニ叙シ、越後

守ニ任ズ、十年十二月、侍從ニ拜ス、文政二年十二月、

左近衛權少將ニ轉ズ、七年三月、從四位上ニ進ニ名

ヲ齊孝ト改ム、十二年十二月、左近衛權中將ニ遷ル

至是、義子齊民權少將、兼三河守、年甫テ十八ヲ立テ嗣ト為シ、別第

ヲ城北ニ起シテ徙居ス、別第ハ、迎賓館ノ西ニアリ、

月三日、遂ニ卒ス、享年五十一、法諡成祐。

六年。齊民移農民于小田中村廣原山。松平記錄。地方書類。

慶長中、森氏津山城材ヲ廣原山ニ伐リ、開墾シテ墾

圃ト為ス、後漸ク荒蕪ス、至是、郡吏佐藤嘉猷左右建助。

議シテ安藝ノ人十數戸ヲ移シ、之ヲ再墾セシム、是

ヨリ農民ノ自ラ来リ耕ス者頗ル多シ、天保十二年、齊民又出雲

後山ニ居キ耕墾セシム。

七年。九月。松平齊厚領久米北條郡内八千四百石餘。

地方書類。矢吹日記。

是年三月、幕府齊厚右近將監、上野館ヲ石見濱田ニ

移ス、其地封ニ盈タザルヲ以テ、久米北條郡十七村

備中倉敷代官築山茂左衛門所管ヲ領ス、大庄屋二

公文、神代和田北角石祖母村等、明治五年ニ至リ、

十月、齊民賑郷市。松平記錄。

先是五月二十一日ヨリ、六月十五日ニ至ルマデ、晝夜雨降り、稻梁熟セズ、於是齊民大ニ倉粟ヲ發シ、以テ貧民ノ賑ハス、

八年。丁酉。二月。幕府命齊民正國圖。地方書記類。

齊民命ヲ奉ジ、元祿以後、河流道路ノ沿革ヲ校正シテ之ヲ上ル、

四月。饑疫並作。地方書記類。

去年凶歉、百姓大ニ饑ユ、藩主及ビ幕吏之ヲ救恤スレドモ、偏ク給スル能ハズ、饑民遂ニ流離シテ、草根

木皮ヲ啖フ、至此疫病大ニ行ハレ、死スル者莫ナシ、

九年。戊戌。三月。齊民請幕府易地。地方書記類。

曩キニ、齊民封内ノ地ヲ交換センコトヲ請フ、於是

幕府東北條小淵山下、青柳戸賀村等、西々條山城大楠、富仲間、奥津村等、大庭

徳山、福田、三郡ノ内ヲ收メ、英田脇坂安董管内、吉野

湯本村等、代官和由主馬管内、田勝南安董管内飯岡、中尾、瓜生

井、小野、鷺巢、小房村等、原村等、主馬所管周佐、百

百、妙見、入三郡ノ内及ビ讚岐小豆島六村築山、茂左衛門、所管

池田、土庄、淵、肥ヲ賜フ、而テ仍ホ舊封ノ地ヲ管ス、

明治三年ニ至リ、管地備中倉敷縣ニ并

四月。巡見使至。松平日記。吉田太郎等之ガ使タリ、巡見使ハ、徳川氏將軍職ヲ

藩ノ政治及ビ民情ヲ觀察セシム、是ヨリ

後、國家漸ク多事ナルヲ以テ、遂ニ廢ス、七月二十一日、香々美川洪水。水害届書。

八月十日、又洛水沿岸大ニ崩ル、

十二年。辛丑。四月、管勝重請幕府為脇坂氏所管。矢吹日記

是年二月、脇坂安董卒ス、蓋シ幕例管主死スレバ則

チ邑ヲ收ム、於是安董所管英田、吉野、勝南、勝北、久米

南條、久米北條、六郡、民仍ホ其管轄為ラントシ、之

ヲ幕府ニ請ハント欲ス、管勝重善三郎、久米南條、躬

自ラ之ニ任シ、江戸ニ至ル、四月二十一日、安董ノ子

安宅淡路守嗣デ立ツ、勝重乃チ書ヲ作り、之ヲ鋸筒ニ

投ズ、明旦、又閣老太田備中守ヲ路ニ要シテ書ヲ上

ル、備中守書ヲ取り、命シテ勝重ヲ檻舎ニ繫グ、幕府

訴スル者ハ、則チ檻舎ニ繫グ、亦其例ナリ、時、幕府勝重ヲ召シ、慰諭シ

テ之ヲ旅舎ニ托ス、五月二日、又安宅ニ属ス、幾ナク
シテ安宅ノ所管ト為ル、

十三年。壬寅。春、瓜生原村溝成。目瀨家記。

瓜生原村縣南ハ、津山川ニ沿ヒ、而テ地高ク灌溉ニ

便ナラズ、是春、村人目瀨與六郎、自ラ資ヲ捐テ溝ヲ

鑿チ、日上村同郡ヨリ、加茂川ノ水ヲ引テ之ニ溉グ、

十月、松平齊宣領吉野郡内。高畑家記。

齊宣兵部大輔、播磨吉野郡脇坂安宅所管海内、桑野、水

官、大草太郎左衛門所轄、川西、狹津、ノ内、九千八百五

十餘石ヲ領ス、下町村ニ治シ、大庄屋一人、川西、村高

門ヲ撰任ス、明治五年ニ至リ、北條縣ニ隸ス、

弘化三年^{丙午}三月。池田筑後守領上打穴里村。山等家記。

筑後守幕府麾下ノ士、備中井原ニ住ス、脇坂氏ノ所管上打穴里村

久米北ノ内三百十六石餘ヲ領ス、丈久三年冬、筑後守幕命ヲ以テ歐

條郡、羅巴洲ニ赴キ、其所置ヲ失シテ邑ヲ收メラル、

六月。置義倉于津山。玉置家記。

先是町奉行稻垣茂松、義倉ヲ設ク穀ヲ儲ヘ、以テ凶

荒ニ備シコトヲ建議ス、齊民之ヲ嘉納ス、乃チ町奉

行馬場貞觀五郎平及ビ大年寄藏合孫左衛門齋藤孫

右衛門玉置六郎左衛門ニ命ジ、富商ニ勸諭シテ穀

ヲ積シム、至是義倉ヲ京町ニ設ク、

土屋采女正遣老臣慰諭領民。美作鏡甲田家記。

老臣鈴木内匠、用人藤井縫右衛門、吉野勝北二郡ノ

領邑ヲ巡視シ、親シク采女正ノ命ヲ傳フ、辭意懇到、

聽ク者感泣セザルナシ、

孝明天皇嘉永元年^{戊申}三月二十八日。齊民旌孝子政太

郎。褒賞申立書玉置家記。

政太郎ハ、津山吹屋町川口屋吉右衛門ノ子ナリ、天

保十四年、吉右衛門罪アリ終身獄ニ處セラル、政太

郎年甫テ十四、官ニ詣リ身ヲ以テ之ニ代ルヲ請フ、

允サレズ、乃チ備役シ以テ衣食ヲ得之ヲ獄ニ遣ル、

弘化四年五月、父ノ疾ムヲ聞キ、又獄ニ入り侍養ス

ルヲ請フ、藩遂ニ之ヲ許ル、政太郎大ニ悦ビ、勤劬

備ヤニ至ル、於是、齊民其孝志ヲ嘉稱シ、告右衛門ノ
罪ヲ釋シ、政太郎ニ金若干ヲ賜ヒ、其家役ヲ蠲キ、以
テ之ヲ旌ハス、

四年。辛亥。四月。土岐山城守。遣老臣慰問領民。矢吹日記。

老臣脇屋衛門来テ領邑ヲ巡視ス、

五年。壬子。八月二十二日。洪水。水害。扁書。

津山川暴ニ漲リ、市街大半水ニ浸サル、

六年。癸丑。夏。大旱。旱害。扁書。

安政元年。甲寅。十一月五日。地震。矢吹日記。

二年。乙卯。五月三日。齊民致仕、慶倫嗣。松平系圖。松平記錄。

齊民幼名銀之助。ハ、大將軍德川家齊ノ第十四子ナリ、文

化十四年九月、齊孝ニ養ハル、文政七年三月、從四位
上ニ叙シ、侍從兼三河守ニ任ズ、九年十二月、左近衛
權少將ニ轉ズ、天保六年十二月、正四位下、左近衛權
中將ニ拜ス、八年八月、正四位上ニ進ム、弘化四年十
二月、越後守ニ遷ル、至是、世子慶倫少將、兼三河守。ヲシテ封
ヲ襲ガシメ、江戸姿見邸ニ退隱シテ、確堂ト號ス、
三年。丙辰。高倉溝成。

嘉永六年、上高倉下高倉草加部並東北野東南四村。

早害頗ル多シ、其明年、保田平兵衛野村。今井頼治草

部村、香山定右衛門上高倉村ノ人。米井彦右衛門下高倉村ノ人。等

相謀リ、堰堰ハ東北條郡ノ村ニ屬ス。ヲ築キ、溝ヲ鑿キ、加茂川ノ

水ヲ引キ、以テ之ニ漑ガント欲シ、之ヲ津山藩ニ請
フ、藩乃チ平兵衛及ビ香山淺四郎野介代村ノ人、和田次郎
左衛門上河原村ノ人、安黒又右衛門大篠村ノ人等ニ命ジテ功
ヲ起サシム、此ニ至テ三年、遂ニ成ル、

五年戊午十一月、慶倫修學館。

先是、闔藩ノ子弟、學業ヲ修ムル者、頗ル流派アリ、而
テ萎靡振ハズ、藩臣山本戡恭次郎、以為ラク文武ノ進
歩ハ、其派ヲ分タザルニ在リト、因テ建議ス、慶倫之
ヲ善トシ、乃チ植原正方六郎左衛門ヲシテ學館ヲ補葺
シ、學制ヲ恢張セシメ、而テ師ヲ聚メ、業ヲ授ケ、其俊
秀ナル者ヲ擇ビ、資ヲ給シテ游學セシム、此ヨリ大

武ノ業大ニ進ム、後、明治四年、又講堂ヲ増築ス、規模
頗ル宏壯ナリ、名ケテ修道館ト曰フ、齊民扁額ヲ書
シ以テ掲グ、

萬延元年庚辰三月三十日、雷鳴雨雹。電害 屈書。

文久元年辛酉四月二十九日、院庄村島田馬之丞妻女、共

伏歿死。島田母子碑 文。貞孝合鏡。

是月二十五日、馬之丞罪アリ、獄ニ繫ガル、其妻女悲
泣シテ措カズ、遂ニ自殺シ以テ其罪ヲ贖ハント欲
シ、共ニ歿ニ伏シテ死ス、藩主慶倫之ヲ嘉シ、即チ馬
之丞ヲ釋シ、俸米ニ口ヲ給フ、後慶應三年、又其臣鞍
懸吉寅寅ニ命ジテ文ヲ撰シメ、碑ヲ其宅趾ニ建

元題シテ貞烈純孝島田母子之碑ト曰フ略ニ云ク
雙烈女曰中曰淺野中者勝山士人高山某女也幼失
怙恃來居於院庄村村豪島田茂内怜而育之嫁支族
馬之丞生一女即淺野淺野敏而美嘗納婿有故去不
再醮馬丞多病不任農事島田氏近時家道益落不能
濟恤以故婦女矻矻勤辛晝耕夜作三十年如一日馬
丞不忍見婦女備嘗艱苦以奉于已也竊某家酒糟若
千售之家人頗疑無故得金問之曰是借之於某家也
既而事發覺馬丞繫獄婦女驚且泣欲共訴郡縣代夫
父茂内子治作素與馬丞善為慰諭婦女以安之有定
助者亦支族獨家富齒高怒馬丞浼宗族痛罵婦女且

曰必無生理婦女慨歎慟慟自謂往訴無益不若身死
代之而雪家辱請治作借二百錢以具酒殺三人齊飲
暗告訣夜深治作去乃作書置几上中把屠魚刀刺喉
淺野剖胸以摘菜刀未殊慮遺書無人知蹣跚詣鄰家
將言聲氣漏語不了了時天未白鄰媪怪起執燭照之
見流血淋漓大驚淺野手指其乳又指東方而合掌良
久蓋乳父國讀同訓而父在獄于東其意請贖父之謂
也媪未解左手撫其背右手塞其刀痕然後微息奄奄
始達其意媪領之淺野莞爾而瞑中年四十五淺野年
二十八遺書上郡宰即日釋馬丞歸其家命村人厚葬
諸村南某原馬丞恨悔自剃髮入村中清眼寺為修其

軍仙遺書三通皆係淺野手筆一上郡麻云盜竊者妾母子非父也自殺以謝願釋其縛妾父近來有逆上疾言語孟浪難辨恐自誣幸勿信又恒多病願命親族以賜撫視二貽治作三貽里正及伍長皆慇懃託後事云按
二當時ノ郡宰ハ佐藤郷左衛門嘉告ナリ
三年癸亥二月慶倫奉勅入朝。

先是外國交際ノ事ヲ以テ朝議幕論相恊ハズ薩長土因備諸藩勅ヲ奉ジテ入朝ス慶倫モ亦其間ニ周旋セシト欲シ未果サズ去年十二月重臣黒田成復彦四及ビ藤本真臣十兵衛柳原景長平次郎井汲貫唯一吹正則治ノ五人京師ニ詣リ慶倫ノ素志ヲ表ス是

年正月八日朝廷内勅ヲ賜ヒ曰ク國家ニ盡力シ朝幕ヲシテ協和セシメヨト於是慶倫入朝シテ恩ヲ拜ス五月乃チ國ニ還ル

五月關新道于神代村横山家記神代村ヨリ田口村並真島郡ニ抵ルノ間官道山巔ヲ通

シ甚ダ險隘ナリ人馬往々顛墜ス萬延元年九月美甘村同郡横山廣幸平右衛門自ラ資ヲ捐テ路ヲ山下ニ拓

ント欲シ土工ヲ經始ス至是坦路一里十町餘神代村赤坂下ヨリ田口村開設シ功ヲ訖ル藩主三浦弘次田井ノ坂ニ至ル備後章服及ビ物ヲ賜テ之ヲ賞ス

慶倫遣兵戍攝津大石濱

外艦數攝海ニ來ルヲ以テ、幕府命ヲ諸藩ニ下シテ、
 海岸ヲ戍ラシム、是月、慶倫命ヲ奉ジ、士卒若干ヲ遣
 シテ、大石濱味泥川ヨリ、先是、長藩ノ兵之ヲ戍ルヲ成ラ
 シメ、本營ヲ五毛村ニ置ク、後、明年秋ニ至テ戍ヲ解ク
 伏水ヲ戍ル

元治元年甲子二月、幕府鑄巨礮于横山村。

幕府、津山藩臣植原正方酒術及砲ニ命ジテ、大礮

ヲ鑄造セシム、正方乃チ地ヲ城南横山村久米南ニ

占シ、大ニ職工ヲ聚メテ之ヲ造ル、

夏、飯岡村溝成。

飯岡村勝南ハ、西南津山川ヲ帶ビ、東ハ英田川ニ傍

フ、而テ地稍高シテ水ニ乏シ、村人角南龜次郎、角南
 國吉等、英多川ノ上流青野村同郡ヨリ、水ヲ引キ田ニ
 溉ント欲シ、同志者ニ謀リ溝渠ヲ穿テ、遂ニ成ル、後
 復々乾涸ノ患ナシ、

八月二十五日、英國人殺津山藩領民幾太郎。

幾太郎ハ、讚岐小豆島蒲生村ノ人ナリ、是月、英國軍
 艦十餘艘、蒲生沖ニ碇泊ス、村人恠ニ出テ之ヲ視ル、
 幾太郎等、遂ニ艦中ニ入テ之ニ接ス、英人短銃ノ用
 法ヲ示ントシ之ヲ發ス、誤テ幾太郎ニ中ル、英人物
 ヲ與テ之ヲ謝ス、村人受ケズ、英人即チ繩ヲ解キ東
 ニ去ル、於是、慶倫大ニ怒リ、鞍懸吉寅、谷口義卿誠ヲ

江戸ニ遣ハシ、事實ヲ申稟ス、幕府乃チ英人ヲ詰責
シテ、金若干ヲ徴シ、以テ幾太郎ノ遺族ニ給ス、

十一月九日、慶倫率軍赴于出雲。

是年七月、松平慶親長門、周防國、毛利ノ重臣益田右衛門

佐、福原越後等、兵ヲ率テ京ニ入り、松平容保會津藩主、守護

職ヲ以テテ、伐チ、克ク、ズシテ走ル、於是將軍家茂、勅

ヲ奉シ、山陰、山陽、西海、三道ノ兵ヲ發シテ之ヲ討ズ、

徳川慶勝大納言、尾張國主ヲ以テ總督ト為シ、慶倫ヲシテ

山陰道ノ兵ヲ督セシム、慶倫乃チ老臣永見國盛丹波

山田勳榮主膳、大熊徳保近江、佐久間盛健上総等、以下四千

人ヲ率キテ、出雲雲樹寺能義郡ニ陣ス、十二月、慶倫廣

島ノ督府ニ會シ、慶勝ト計議スル所アリ、既ニシテ

慶親、右衛門佐等三人ヲ斬テ罪ヲ謝ス、先是十一月

三日、勝山藩主三浦弘次病アリ、子頭次ヲシテ重臣

三浦知次滿衛、戸村愛重惣右衛門等以下ヲ以テ、役ニ廣島

ニ赴カシム、及是皆軍ヲ班ヘス、初毛利氏ノ兵、京ニ

村ノ人安東、鉄馬貞啟、往テ其軍ニ從フ、七月十九日、

塚町門ノ戦、貞啟身ヲ挺シテ、健闘シ、敵六人ヲ斬ル、

既ニシテ、銃丸面ニ中テ斃ル、時ニ二年十二月、西條

郡、貞永寺村ノ人、櫻井新三郎亦勤王ノ志ニ厚ク、常

ニ王事ニ周旋ス、明治元年三月、東山道督將岩倉具

視ニ從テ、江戸ニ抵リ、遂ニ賊兵ノ暗殺スル所口ト

為ル、是月、津山藩置番兵。
藩、東西大番所、及ビ玉琳、筋違橋、廣瀨橋、龍ノ口ニ番

兵ヲ置キ以テ不虞ニ備フ

慶應元年^{乙丑}二月幕府救吉野郡壬生村民^{岡田家記}

幕邑壬生村ノ民連年窮乏シ竟ニ自ラ濟フ能ハズ

於是庄屋岡田彌兵衛^{同郡山手村ノ人}代官横田新之丞^馬

生野ニ依テ今後十年ノ租ヲ減ジ以テ之ヲ救フ

ヲ請フ新之丞乃チ屬吏菊地權作ヲ遣シテ檢按セ

シメ遂ニ幕府ニ建議シテ之ヲ許ルス^{先是弘化中}

村庄屋安東壽右衛門^{生野代官大草太郎左衛門ニ}

請テ後山村ノ租ヲ減ズ俗ニ之ヲ手當定免ト稱ス

六月十二日津山藩置農兵

藩封内農民ノ兵役ニ堪ル者一百人ヲ擇テ隊伍ヲ

編制ス而テ中島半平^{香々美中村ノ人}土居源次郎^{田邑村}

植月熊次郎^{一方村人}近藤道之丞^{上河内村ノ人}ヲ以テ其長

ト為ス^{明治二年ニ至テ之ヲ廢ス}

二年^{丙寅}六月六日慶倫復發兵赴于安藝

先是將軍家茂親ラ大阪城ニ来リ再ビ師ヲ興シテ

毛利氏ヲ討ントス慶倫因備等五藩ト連署シ之ヲ

諫ム家茂聽カズ慶倫ヲシテ山陽道ニ向シム慶倫

乃チ兵ヲ發シテ安藝ニ赴ク至レバ則チ戰ヒ巴ニ

酣ニシテ幕兵連リニ利アラズ山陰道ノ兵モ亦敗

岨ス慶倫其封境ヲ固守セザル可カラザルヲ以テ

書ヲ督府ニ致シ而テ還ル

十一月津山藩領民騷擾

是秋大風東北條郡害最モ多シ、行重村同直吉政之
丞、光次郎等減租ノ少ナキヲ怨ミ、是月二十四日夜、
村中荒坂ニ會シ、將サニ遠近ヲ侵擾セントス、一郷
皆之ニ応ス、詰朝沿道ノ村落ヲ煽動シテ、川邊村南勝
郡ニ到ル、光次郎等乃チ一千餘人ヲ分チ、倉敷村田英
郡ニ向シメ、而テ自ラ進デ津山城下ヲ侵ス、藩臣佐
藤嘉告郷左衛門等解諭シテ津山ニ入ガラシメントシ、
竟ニ能ハズ、藩士大橋門ヲ鎖シテ之ヲ拒ス、暴徒既
ニ林田町ニ入り、酒食ヲ肆ニス、銃卒ヲ詬罵シ、甚キ
ハ胸ヲ露シテ曰ク、須ラク此ヲ撃ツベシト、遂ニ石
ヲ投ジ門ヲ碎ントス、聲天地ヲ動カス、銃卒切齒ニ

禁エズ、銃ヲ發シテ光次郎等數人ヲ殪ス、古市右近、
大島平藏等又諭スニ救恤ノ事ヲ以テス、暴徒ノ勢
氣稍沮ム、其夜倉敷村ヨリ至ルノ徒ト合シ、富商七
十餘戸ヲ破壊ス、藩乃チ令シテ之ヲ鎮壓セシム、二
十六日、大庭郡古見村ノ民亦父世村ノ商戸ヲ破壊
シ、且サニ津山ニ逼ントシ、無慮三千人、中北村久米北條
郡ヲ過グ、村人久山直助中庄屋ヲ勤ム、迎ヘ諭テ曰ク、即シ
津山ニ逼ント欲セバ、請フ必ズ先ヅ我家ヲ壞レ、我
ガ家ヲ壞ラズンバ、此地ヲ經過スルヲ許サズト、乃
チ酒餉薪炭ヲ備テ之ヲ與フ、暴徒曰ク、吾徒既ニ衆
シ、汝ノ薪炭以テ供スルニ足ル耶、直助曰ク、薪炭盡

レバ則チ門舎、門舎盡レバ則チ倉庫、倉庫盡レバ則チ家屋、以テ之ニ繼ガンノミ、幸ニ過慮スル無レト、暴徒其忠誠ナルニ感ジ、敢テ前マズ、内藤氏ノ代官、柴田順平、大庄屋安藤善右衛門坪井下村人等、直助ヲ佐ケ、力ヲ竭シテ解諭ス、十二月朔ニ至テ、遂ニ退キ去ル、是ヨリ土岐氏ノ領邑、英田郡ノ民亦騷擾シ、尋テ鎮定ス、十二月二十四日、藩主慶倫、直助ノ功ヲ賞シ、大庄屋ト為ス、明年、直吉等六人ヲ終身獄ニ處シ、騷擾ニ乗ジテ盗ヲ為ス者四人ヲ放ツ、三年、丁卯三月廿六日、松平武聰來住久米北條郡。去年六月、毛利氏ノ兵石見ニ入ルヤ、濱田藩兵、益田ニ逆ヘ戦ヒ、隊長山本半彌、及ビ岸靜江、川島倉治、永

井金三郎、那波民江、近澤瀧之進、篠瀬豊次郎、カ石幸三郎等皆死シ、幕府ノ軍監三枝刑部モ亦死ス、時ニ督府ノ兵之ヲ援ハズ、藩兵敗レ還ル、藩主武聰右近將監病アリ、遂ニ城ニ火シテ出雲ニ退走シ、日ニ恢復ヲ圖ル、會マ將軍家茂薨ズ、尋テ天皇亦崩ズ、因テ救シテ兵ヲ解カシム、於是武聰其領邑里公文村久米北條郡ニ徙住シ、鶴田藩ト改稱ス、後明治四年、新第ヲ同郡桑下村ニ興シ、將サニ徙ントシ藩ヲ廢セラレ、今上天皇、明治元年、戊辰正月、池田茂政使老臣巡視幕邑。客歲十月十三日、將軍德川慶喜、政權ヲ奉還シ、會津乘名ノ諸藩ヲ率中、退テ大阪城ニ入ル、既ニシテ朝

廷慶喜ヲ召シ、會衆二藩ノ京ニ入ルヲ禁ズ、今年正月三日、會衆等諸藩慶喜ノ先駈ト稱シ、伏水ニ至リ、薩長等諸藩ノ兵ト戦ヒ、大ニ敗レ退キ走ル、於是倉敷備中、生野但馬等ノ幕吏皆變ヲ聞キ邑ヲ棄テ、遁ル幕邑恟然タリ、茂政備前乃チ長臣池田采女助周匝ニ命ジテ之ヲ鎮撫セシム、采女助兵ヲ率テ勝南父米南條ノ二郡ヲ巡視ス、生野及ビ倉敷所管ノ幕邑ル、幾ナクシテ薩藩折田要藏、生野ニ長藩伊勢新左衛門、倉敷ニ抵リ、之ヲ管轄ス、二月、奉勅赦罪囚。

先是正月十日、天皇即位ノ禮ヲ行ヒ、勅シテ亂臣賊子ヲ除クノ外、天下ノ罪人ヲ赦ス、至是津山、鶴田、勝山

ノ三藩及ビ海内下町ノ諸廨皆其獄囚ヲ釋シ、放者ノ籍ヲ復ス、

慶倫朝京師。

德川氏政權ヲ奉還スルノ後、朝廷列藩ヲ召ス、初メ慶倫先帝ノ内勅ヲ奉ジ、朝幕ノ間ニ周旋シ、而テ伏水ノ變アリ、痛歎措ク能ハズ、乃チ志ヲ大義ニ決シ、亟カニ闕下ニ詣リ罪ヲ謝サント欲シ、病アルヲ以テ未ダ發セズ、然ルニ德川氏ノ宗親ナルヲ以テ、毛利氏、池田氏等ノ疑ヲ容ル、所口ト為ル、是月遂ニ入朝ス、

津山藩置外事局。

藩、小澤朝泰本、山本戡雙、河瀬重徹重、中澤貞胖廣、中
村高尚衛、等ヲシテ專ラ隣交ヲ修メシム、其署ヲ
名ケテ外事局ト曰フ、

閏四月十九日、鶴田藩老臣尾關當遵、自殺謝罪。

伏水ノ變ヤ、鶴田藩兵會衆ノ諸藩ト共ニ官軍ニ抗
戦ス、然ルニ藩主武聰病アリ、事皆藩臣ノ意ニ出ル
ヲ以テ、重臣及ビ隊長數人自殺シ、以テ之ヲ明カサ
ント欲シ、因備ニ藩主共ニ武聰ノ兄ナリニ就テ哀請ス、朝議
重臣一人ニ死ヲ賜ヒ之ヲ許サレ、當遵年六十六、乃チ
罪ヲ引キ、京師本國寺ニ自殺ス、朝廷ニ藩主ニ命ジ
テ恩諭ヲ武聰ニ傳ヘシム、

五月九日、赤野村女、一胎産三子。

女名ハ照、津山封内赤野村大庭郡ノ農民音蔵ノ妻ナ

リ、一胎ニ男兩女ヲ産ム、藩乃チ舊幕ノ例ニ準ジテ、

青銅五十貫文ヲ給與ス、

是月、慶倫告諭封内論告書。

先是慶倫入京シ、毛利定廣ニ和ス、又池田章政茂政ノ子

ト和親シ、緩急相救ヒ、吉凶相通ズルヲ約ス、是ニ於

テ、慶倫章政、各其封内ニ告諭シテ、曰ク、浮説ヲ作テ、

人民ヲ煽動シ、兩藩ヲシテ睽乖セシムル勿レ、

松平武聰、領久米南條郡等三萬八千石。

朝廷、武聰ニ脇坂安宅ノ所管英田土居、竹田、勝南、羽

行信、松尾、藤田、勝北、田井、植、久米、南條、大戸、柳淵、羽出、王子、阿蘇、村等、足山、久米、打、五郡ノ内ヲ賜フ、六月八日、等、久米、北條、穴、桑村等、武聰之ヲ收メ、其臣平野秀二郎、田澤喜十郎、神澤賜之助、小寺恒五郎、岡田傳等ヲシテ、桑下村及ビ和田、南村ニ管セシム、

二年。二月二十七日。慶倫奉還封土。

先是薩長肥土諸藩版籍ヲ奉還ス、慶倫亦之ヲ還納ス、

三月。慶倫巡視管内。慶倫輕裝シ、管内ヲ巡視シテ、復古ノ朝旨ヲ告諭シ、且孝義慈善者ヲ褒獎シ、貧民ヲ救恤ス、蓋シ郡代西

村正路橋五ノ建議ニ由ルナリ、明年三月、鶴田藩主武聰亦大參事ヲシテ代テ管内ヲ巡視セシム、

四月十七日。慶倫創建作樂神社。

先是藩臣道家八尺助十郎、植木英謹惣左衛門、宇津木義路

縫殿、海老原景昭修平、三好政房勘五左衛門、服部政徳兵原

田行正守夫、谷口義卿、神西少磨仁六郎、松本政明七郎、石

安藤重恭仲藏、矢吹正則、立石公久助右衛門、十三人、連署シ

テ後醍醐帝ヲ院莊ノ館趾ニ祀リ、兒島高德ヲ以テ

之ニ配享セシコトヲ請フ、適慶倫京師ニ在リ、大ニ

之ヲ嘉シ、直ニ奏ス、三月八日允サル、於是慶倫八尺

行正、政明、正則、公久、及ビ妹尾正興平、江川昭武繁次郎

森岡為繼陣八、木村重國近之、之ノ九人ニ命ジテ造營ノ事ヲ掌ラシム。號シテ作樂神社ト曰フ。士民ノ來テ功ヲ助ル者、日ニ百ヲ以テ數フ。十一月ニ至テ、成ヲ告グ。

六月。三藩主皆任知事。

是月十八日、正四位松平慶倫、津山藩知事ニ任ズ。二十一日、從五位三浦顯次、真島藩是日、勝山藩ヲ改テ、真島藩ト為ス。知事ニ任ズ。二十四日、從四位松平武聰、鶴田藩知事ニ任ズ。於是、皆朝制ニ據テ、庶政ヲ改革ス。十月、津山藩渡部兼道慈馬、海老原景員極人ヲ以テ、大参事ト為シ、鞍懸吉寅、小澤朝泰、宮田德輔矯四郎、昌谷千里端一郎ヲ以

テ、權大参事ト為ス。鶴田藩、尾関秀秀之丞、伊藤祐命三郎ヲ以テ、大参事ト為シ、生田精精、野島恒了、河鱈齋新ヲ以テ、權大参事ト為ス。真島藩、九津見範陳吉左衛門、戶村愛重惣右衛門、加藤重喬右門ヲ以テ、正權大参事ト為ス。尋テ少参事大属以下ヲ撰任ス。

七月。津山藩拘川副誠之丞等十人。

先是、誠之丞、山路一郎等ト、江戸ヲ亡逸シ、數官軍ニ抗戰シ、終ニ函館ニ降ル。於是、津山藩ニ勅シテ之ヲ拘セシム。慶倫乃チ之ヲ城西安國寺ニ拘置ス。明年五月二十四日、駿河靜岡藩ニ遣歸ス。一郎等三人、留秋。真島藩設明善館。

藩明善館ヲ創設シ、士民ヲシテ學ニ就カシム、
十月二十九日、津山藩置議事局。

藩黒田成復、村山正臣ヲ以テ正副議長ト為シ、中村謙
靜一丹治謙治ヲ以テ幹事ト為ス、而テ大村成章

斐、西村正路、信澤南港、道家八尺、上原燮秀太、馬場真

毅縫殿右衛門、野矢為憲カ、神村信卿省、久原宗甫、三浦一

馬、後藤懋立太、馬場信成兼次、神西少磨等二十人ヲ

公選シ、以テ議員ト為ス、

十一月、鶴田藩管内騷擾。

去年、藩所管ノ民心一ナラズ、庄屋ヲ猜嫌シ、誣告ス
ル者アリ、自ラ愁訴ト稱ス、而テ之ニ與セザル者ア

リ、亦自ラ正義ト稱ス、先是、庄屋等謂ラク藩主舊祿

ニ復セザレバ、以テ士卒ニ給スルニ足ラズ、宜ク藩

主ニ代テ之ヲ乞フベシ、若シ允サレズンバ、復龍野

藩ノ所管ト為ント、是ヲ以テ郡吏益、庄屋ヲ怨嫌シ、

正義ト愁訴ノ徵、担ヲ別ツ、偶々愁訴ノ悔悟シテ、黨

ヲ除カント欲スル者アルモ、聽サズ、因テ中立シテ

亦自ラ落印ト稱ス、管内紛擾、人心危懼スル者、幾ン

ド、一年半、是月、藩遂ニ愁訴ノ兇暴ナルヲ以テ之ヲ

擯斥ス、十六日、訴黨乃チ羽出木、鹽ノ内並ニ久米南

ニ蜂起シ、勝南郡ヲ煽動シテ、十九日、土居村英田ニ

至ル、其黨千ヲ以テ數フ、至ル所口富豪ニ強迫シ、貧

襲ヲ肆マ、ニス、既ニシテ下二箇山手村久米南ニ

出ヅ、藩乃チ士卒ヲ出シ、六百餘人ヲ捕フ、於是管下

始テ帖席ノ念ヲ為ス、明年八月十八日、山上村、

吉兵衛ヲ終身獄ニ、山上村、常八、羽出、木村、清左衛門、

門等十一人ヲ徒刑ニ處ス、翌日、押淵村、庄屋、田口、

助、山ノ城村、庄屋、志茂、善八郎、其村、民ヲシテ之ニ黨

ヲ賞ス、

二十九日。鶴田藩改祿制。

藩士族ヲ分テ六等ト為シ、卒ヲ二等ト為ス、而テ上

士ニ祿二十三石ヲ給シ、以下每等二石五斗ヲ遞減

ス、獨尾関秀ニ、四十二石ヲ給ス、其父

冬。鶴田藩改學制。

先是藩學校ヲ乘下村ニ設ク、至此學制ヲ更正シ、士

民ヲシテ學ニ就カシム、

三年。庚午。正月。津山藩設衆樂園。

園ハ山北村西北條郡、○城ニ在リ、先國主森氏ノ築

ク所ニシテ、藩主ノ別墅ト為リ、北園、又迎賓館ト稱

ス、於是慶倫改テ衆樂園ト名ケ、衆庶ニ縱シテ遊觀

セシム、

三月十二日。慶倫徙居新第。

先是津山城、大阪鎮臺ノ所轄ト為ル、慶倫乃チ新第

ヲ城内厩濠ノ北ニ興シ、焉ニ居ル、

春。津山藩改定軍制。

春。津山藩改定軍制。

春。津山藩改定軍制。

春。津山藩改定軍制。

春。津山藩改定軍制。

藩初ノ甲越ノ兵制ヲ用ヒ、城内ニ講習ス、慶應中、改テ蘭式ト為シ、砲臺ヲ各所ニ築ク、明治ノ初、又英式ニ更メ、射槍ノ術ヲ廢ス、至是朝制ニ從ヒ、又佛式ニ革ム、後五年二月ニ至テ之ヲ廢ス、鶴田、真島兩藩ノ兵制モ、亦率ネ同ジ、

八月、通舟于高田川原流。

先是美甘政和與一郎、津山藩士、元大庭郡湯本村ノ人、池田類次郎真島郡見

尾村等、高田川ノ原流ヲ浚鑿シテ、大庭、真島二郡、及

ビ因幡、伯耆ノ諸物産ヲ南海ニ漕運セント欲シ、津

山、真島、鳥取、岡山四藩ニ建議ス、四藩皆之ヲ善トシ、

資ヲ給シテ浚鑿セシム、經營スルコト三年、高田村

真島ヨリ、長田村大庭郡、ニ至ルマデ、水路八里、功畧ボ

成ル、於是四藩相會シテ、通舟ノ式ヲ行フ、政和等、繼

ヲ加ント欲シ、廢藩ニ會フテ止ム、是役、鳥取藩武信

潤太郎、真島藩關屋四六等、大ニ力ヲ竭セリト云、

九月十八日、大風。

是月、奉勅許平民稱姓氏。

十一月二十二日、津山藩改祿制。

先是、明治二年、藩士ヲ十四等ニ分テ、祿五十石以下ヲ給

ス、至是、又改テ十六石及ビ十一石ト為シ、卒ニ四石

及ビ三石ヲ給ス、

二十五日、津山藩改革庶政。

藩文武ノ諸官ヲ改任シ、民政局以下ヲ藩廳ニ合シ

テ事務ヲ調理セシム、
十二月十日、真島藩改祿制。

藩士二十五石及ビ九石ヲ給シ、卒ニ六石五斗ヲ給ス、

四年。辛未。五月十八日。洪水。

津山川大ニ溢レ、市街半バ水ニ浸サル、

七月十四日。廢藩為縣。

是日、詔シテ諸藩ヲ廢シ、知事ヲ罷メ、而テ正權大参事ヲシテ縣治ヲ綜理セシム、

二十五日。慶倫卒。

慶倫ハ、齊孝ノ第二子ニシテ、齊民ノ嗣ナリ、嘉永元

年正月、從四位上ニ叙シ、左近衛權少將、兼三河守ニ任ズ、安政四年十二月、左近衛權中將ニ遷ル、元治元年五月、正四位下ニ進ム、其疾ノ革ナルニ及テ、廢藩ノ詔至ル、乃チ坐ヲ端シテ之ヘテ拜シ、大小参事ニ拮据勉勵センコトヲ囑シ、遂ニ卒ス、享年四十有五、舊臣建議スル者アリ、始テ愛山村山北ニ神葬ス、慎由ト謚ス、

八月十二日。盜殺權大参事鞍懸吉寅。

曩キニ、吉寅、藩命ヲ以テ東京ニ在リ、官召テ民部省ニ出仕セシム、廢藩ニ及ビ、乃チ請テ國ニ歸リ縣治ノ事ヲ議ス、是日、河瀬重男椿高下ニ居ルヲ訪ヒ、半夜出去

ントス、盜門外ニ在リ、小銃ヲ以テ狙撃ス、丸肋ニ中
テ歿ス、官之ヲ憫ミ、祭祀金七十兩ヲ賜フ、
二十四日、松平武聰移住東京。

先是、朝廷舊藩主ヲ以テ、東京府ノ貫屬ト為シ、徙リ
居ラシム、是日、武聰里公文村ヲ發シテ途ニ上ル、

九月十一日、三浦顯次移住東京。
二十一日、松平康倫移住東京。

康倫幼名太ハ齊民ノ第三子ナリ、明治元年閏四月、
從四位上ニ叙シ、侍從、兼美作守ニ任ズ、至是慶倫ノ
嗣ヲ承ケ、家ヲ挈テ東京ニ移住ス、蓋シ元祿十一年
宣富始テ津山ニ封ゼラレシヨリ、茲ニ至テ十世一

百七十四年ナリ、

十一月十五日、置北條縣于津山、管轄閩州。

是日、小野立誠越前大野士族權參事ニ任ズ、二十日、淵邊高

照薩摩鹿兒島士族參事ニ任ズ、十二月二十九日、共ニ津山

ニ到ル、明年正月四日、元津山縣廳ヲ以テ、北條縣廳

ト為ス、五日、判任ヲ撰用ス、是ヨリ日ヲ逐フテ、元津

山 十二日、二百 鶴田 二十二日、二 真島 二十七日、倉敷

九 十三日、五日、沼田 十八日、古河 同日、三 豐岡 同日、五

母 同日、三 明石 十四日、四 龍野 同日、十 縣ノ土地人民ヲ

統理ス、

追補

明治三十三年三月法律第二十八號ヲ以テ美作國英田吉野二郡ヲ廢シ其區域ヲ以テ英田郡ヲ置キ勝南勝北二郡ヲ廢シ同ク勝田郡ヲ置キ東南條東北條西北條西條四郡ヲ廢シ同ク苫田郡ヲ置キ久米南條久米北條二郡ヲ廢シ同ク久米郡ヲ置キ大庭眞島二郡ヲ廢シ同ク眞庭郡ヲ置キ同年四月一日ヨリ施行セラル眞庭郡ヲ除クノ外悉ク和銅分國ノ際ノ舊郡名ニ復セリ

美作畧史卷之四終

日表示賜名吹君可若美作畧史并見微
拙叙系不才加官事督修甚嚴文章
禁蕪何不應今無漢畧史收其源誤事
實詳畧得宜比之區坊乃在諸書相
距何言表等不亦在更改不能為之表
章之忍招爐職之識因難苦當駭敢方之
篇聊以塞責貽笑大方耳頃者不圖
隆禮辱賜殊增悚息謹此鳴謝尋

用事書或有不確。今始定之。然其
定好之辭。並佳。以吾觀之。名不可言者。請
速刊行。以惠世。可也。以言傳示。使人聞之。
矢吹君。他日而德若此。鄙懷不宣。

依四下小拜

矢吹君仁兄

六月一日

書美作略史後

余交於矢吹君。正則有年。其爲人所推服者三。君
諄々雅飾。待妻子溫和。未嘗疾言遽色。是其一也。
君本豪農。以善擊劍。別起一家。而奉身儉素。處世
明敏。遂致家道隆盛。爲子孫之計深固。是其二也。
君性精審。詳密。檢覈古今。證考確實。遂編成美作
略史。垂名于不朽。是其三也。夫博識多才。世不乏
其人。而顧其爲人所推服者幾何。獨君爲人如此。
而有此著作。豈得不推服乎哉。

辛巳夏日

播磨 南岳岸光識

僕曾編備前略史也。艸稿已成。校正數次。改彼削此。隨讀隨抹。而開板期迫。竟付諸劊。爾後閱之。猶覺多可改者。是雖依僕之不文與踈漏。亦可以見著書之難。今觀貴著。用意之深。鍊磨之熟。實不堪敬服。但略史之體。以簡明爲要。因叨加鷗黃。以呈一二之愚見。亦同病相憐之意也。足下幸恕其罪而採擇之。

備前 成田元美拜

考據精確。行文有法。敬服々々。

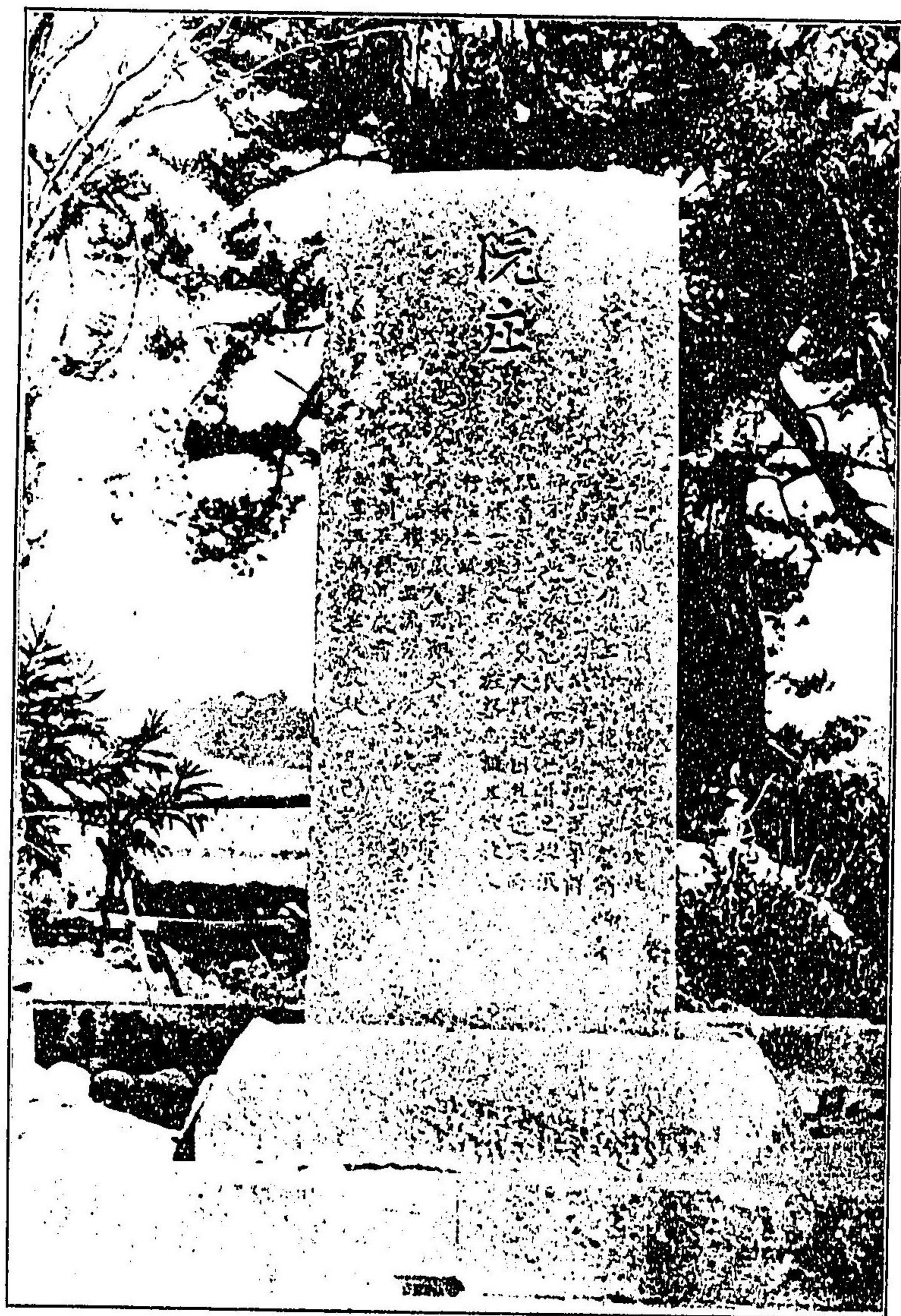
因幡 安達清風拜



贈從三位鳥高公德公像

圖 面 北 西 城 山 津





碑石蹟舊庄院設建氏尼長二



影遺翁則正吹矢

矢吹則正翁遺影

一
矢吹則正翁遺影

矢吹正則君傳

亡友矢吹君名ハ正則弓齋ト號ス初メ弓治ト稱ス矢吹正昭君ノ二男也母ハ村上氏祖
父名ハ祐正世々孫左衛門ヲ以テ通稱トシ森氏時代二十五村ノ大里正タリ君天保四
年十一月美作國勝田郡北和氣村大字行信ノ里ニ生レ年甫テ十八親戚津山城下日笠
家ヲ嗣キ故アリテ生家ノ氏ヲ用ユ少壯武ヲ好ミ劍術ヲ松尾愼六ニ砲術ヲ古市右近
ニ學ヒ後チ江戸齋藤彌九郎ノ門ニ游テ業ヲ修メ造詣スル所アリ又旁ラ信澤遊龜馬
場簡齋ニ就テ文學ヲ修ム安政文久ノ頃國家漸ク多事勤王佐幕ノ論大ニ起ル而テ津
山藩ハ幕府ノ親藩ナルヲ以テ藩論一致セズ君密ニ藩士黒田彦四郎鞍懸寅次郎藤本
十兵衛海老原修平井汲唯一等ト議シ專ラ勤王ヲ唱ヘ遂ニ事ニ託シテ上京シ在京ノ
志士ト交ハル偶マ 朝廷特ニ藩主ヲ召シテ京都ヲ護衛セシム是ヨリ藩論勤王ニ一
致シ君及ヒ治部謙松本正造ヲ舉テ外事掛トナシ他藩使節ノ應對ニ當ラシム明治元
年君藩士道家助十郎海老原修平等ト謀リ同志十三名連署シテ 後醍醐天皇ヲ院庄
行在所ノ舊蹟ニ奉祀シ兒島高德朝臣ヲ配享センコトヲ建議ス藩主之ヲ嘉シ 朝廷